



平成 30 年度

淑徳大学地域支援ボランティアセンター活動報告書

淑 徳 大 学

巻 頭 言

本センターは、淑徳大学の全学的な地域支援ボランティア活動について、本学の建学の精神「利他共生の理念と実学教育」を行動化し、その実践を教育研究と社会貢献に資することを目的として設置されたものです。

各キャンパスでは、学生、教職員によるボランティア活動が展開され、さまざまな取り組みが行われてきました。本センターは、この取り組みが活発化されることを支援し、かつ、学生がどのキャンパスのどの学部・学科に所属していても、そして教職員も、淑徳大学の一員というアイデンティティを保ちながら地域支援活動、ボランティア活動等を考え、行動する機会として、本センターの役割を推進させるため、各学部の教職員と短期大学の教職員も参加し、教員、職員を超えて、お互いが対等な立場で、運営委員会で全学的な取り組みについて協議をすすめています。

本センターの主な活動内容としては、災害支援から始まったことも特徴のひとつで、東日本大震災で被災された東北の地（宮城県石巻市雄勝町）の災害支援、復興支援活動、学習支援、パネルシアター、スタディツアーを企画しこれまで継続的かつ全学的に取り組んでまいりました。

平成 26 年度からはこれらに加え、淑徳大学の社会的責任と使命を果たすべく、今日の社会問題に対して行動化が必要な事象に対し、学生が主体的に取り組むことができるよう、全学的なボランティア学習の機会を提供する試みも始めています。その一つが各地の地域包括支援センター等で地域住民を対象に全国的に展開されている「認知症サポーター養成研修」の開催です。本センターでは、本研修を学生、教職員を対象とするほか、地域住民の方がたにご案内し開催していることも特徴です。本講座をきっかけに、地域の方々と「共に生きる社会の実現」に向けて、今、私たちにできることは何か、地域の方々共に行動化できるようになる学生・教職員像を描いています。

また、平成 30 年度も、各地で豪雨災害など、安定した生活を揺るがす事態が発生しました。本学では義援金を募集することのほか、岡山、広島、愛媛で設置された災害ボランティアセンターへのボランティア派遣も検討するなど、全学的な検討をおこなったことは特筆すべきことでした。

本書は、平成 30 年度に本センターが主催した活動を中心とした報告書です。全学的な取り組み、活動内容をご理解いただくとともに、プログラムに参加した学生の成長を読み取っていただければ幸いです。今後も、本センターは、利他共生の考えのもと「今、私たちにできることは何か」をたえず自問自答しながら地域社会の一員としても成長していく学生、教職員の学びのプラットフォームの役割を果たしていきたいと存じます。

最後になりましたが、本学学生と教職員によるボランティア活動は、受け入れてくださる地域の皆様の許しがあってはじめて成り立つものです。ここに、ご協力いただいた被災地域の方々、関係機関の方々に改めて感謝を申しあげ、巻頭言とさせていただきます。

淑徳大学地域支援ボランティアセンター長 山下 興一郎

目 次

巻頭言

1. センター活動	1
◆学習支援ボランティア	
◆パネルシアターキャラバン	
◆スタディーツアー	
◆認知症サポーター養成講座	
2. 各キャンパスにおける活動内容	65
◆千葉キャンパス	
◆千葉第二キャンパス	
◆埼玉キャンパス	
◆東京キャンパス	

1. センター活動

淑徳大学 東日本大震災復興支援プログラム

第 8 回 学習支援ボランティア

◆ボランティアの目的

この学習支援ボランティアは、東日本大震災以降、淑徳大学と交流が続いている宮城県石巻市立雄勝中学校の生徒たちの夏休みの学習を応援することを第一の目的としています。そして、被災地の現実と復興の現状を人々の生活にふれて『共に生きる』ことの意味と『私たちに何ができるか』を体験的に学ぶことを第二の目的としています。

◆スケジュール

日 時		行 程
7/21	13:00～ 16:00	事前学習(東京キャンパス1号館)学生支援部応接室
7/31 (火)	9:10	東京駅新幹線 北のりかえ口乗換改札口 9:10 集合 (大宮から乗車学生は、直接 10:06 分発の列車へ乗車。車内合流)※昼食は各自用意(車中食事)
	9:40	【やまびこ 45 号】東京駅 9:40 発→大宮駅 10:06 発→古川駅 11:49 着
	13:30～15:00 17:00 頃	古川駅着後 タクシーにて旧大川小の避難検証(30 分)その後、 雄勝ローズファクトリーガーデンにて震災レクチャー(60 分) ⇒ 翌日の下見を兼ねて雄勝中学校周りで亀山旅館へ
	18:00	夕食
	19:00	ワークショップ ^o (学習指導計画)
8/1 (水)	8:00～9:45	雄勝中学校 駅伝の練習
	10:00～11:50	部活の指導、中学 3 年生受験対策学習指導 (最初の 30 分程度 先生とのミーティング) (その後 30 分程度 生徒と学生の自己紹介)
	12:00～13:00	昼食
	13:30～16:30	旧雄勝店子や商店 硯ボランティア
	17:00	帰宿
	18:00	夕食
	19:00	ワークショップ(振り返り等)
8/2 (木)	8:00～9:45	雄勝中学校 駅伝の練習
	10:00～11:50	部活の指導、中学 3 年生受験対策学習指導
	12:00～13:00	昼食
	13:30～15:30	雄勝ローズファクトリーガーデンボランティア
	16:00	帰宿
	18:00	夕食
	19:00	ワークショップ(振り返り等)
		【共通】 ◆朝食:6:00 頃 ◆出発:7:30 ◆昼食:12:00 ～ (お弁当) 中学校出発時に旅館から受け取ってください。 ※8/3 は荷造りを行い、

8/3 (金)	8:00～9:45	雄勝中学校 駅伝の練習	朝玄関に置いておくこと。 学習支援終了後、亀山旅館には戻りません。
	10:00～11:50	部活の指導、中学3年生受験対策学習指導 (終わりの30分程度お別れ会)	
	12:00～13:00	昼食	
	13:00～15:00	古川駅へ	
	15:09	古川駅発 やまびこ 50号 15:09 発 大宮着 16:59 東京着 17:24 着後解散	
日時 未定	事後学習		

◆ボランティア先

雄勝中学校 石巻市雄勝町大浜字小滝浜 2 番 2
Tel 0225-58-2245(中学校)ご担当:教頭 竹内 先生

◆宿泊先

亀山旅館 宮城県石巻市雄勝町大須字大須 218-2 Tel 0225-58-2025
雄勝タクシー(移動手段) Tel 0225-57-2020

◆参加者名簿

総合福祉学部 社会福祉学科 1 年 おやま りょう
小山 楓

総合福祉学部 社会福祉学科 1 年 みやはら まい
宮原 舞

人文学部 表現学科 1 年 さわもと ありさ
澤本 有咲

◆引率教職員

千葉キャンパス 【教員】^{やまぐち こうじ}山口 光治 副学長 【職員】^{ととかわ てつ やすだ えみ}都外川 哲・安田 絵美

貴重な経験

総合福祉学部 社会福祉学科 1 学年 小山 楓

今回、学習支援ボランティアに参加をし、多くの学びを得られたと感じます。特に、小学生や中学生の皆さんと関わっていくなかでの学びは多くありました。また、雄勝町に訪れたことで、被災地の現状を自分たちの目で確認できたと思います。

今回の活動の目的として「共生とは何かを知る」こと「被災地の現状を知り、今の私たちに何ができるのか」という二点を意識しながら活動をしました。私が今回の学習支援ボランティアに参加した理由として、「共生」とはなにかを大学で意味としての学習はしていますが、実際どのようなものなのか、自分が意識して行動することがなかったからです。また、自分自身が岩手県陸前高田市で被災をしたこともあり、他の地域の皆さんがどのような生活を送っているのか知る必要があると感じたからです。

亀山旅館に到着したのは 22 時から 23 時くらいだったと思いますが、雄勝町で最初に感じたことは、とても静かで明かりが少ないということです。このときは、夜だったこともあり、辺りがどのような状態なのかを把握できていませんでした。次の日に街中を見てみると、辺りは更地となっており、民家がほとんどありませんでした。雄勝町へ車で移動しているときに感じた、明かりが少なく暗いという理由がわかりました。また、青く綺麗な海は 10 メートル近くある巨大な防波堤で遮られており、いたるところが工事中となっています。雄勝町で生まれ育ち、この状況を毎日見ている方々の気持ちを考えると胸が痛くなります。防波堤は津波が来たときに大きな役割を果たしますが、雄勝町に住む方々はどのように考えているのか、直接聞くことができなかったのは心残りです。

8 月 1 日の学習支援では、一番はじめに小学生の国語を担当しました。その男の子は、東北のなまりが入っており、とても親近感が湧いたのを覚えています。私は現代文が比較的できる方だったので意気込んでいましたが、実際には教えることがとても難しいと感じました。相手の「わからない」ことに対して、相手に「わかる」言葉や説明をどのように変えたらいいのか考えさせられる体験となりました。

中学生とは、学習支援や駅伝の練習を一緒に行いました。特に私が印象に残っているのは、駅伝の練習をしている中学 3 年生の姿です。1 日目の駅伝練習では、走っている中学 3 年生のみんなを応援することしかできませんでした。休憩中に話しかけようとしても、緊張や、何を話そうかということを考えてうまくいきませんでした。なにより、汗をかきながら何キロも走る皆を、ただ遠くから応援していることに疑問を感じたのです。1 日目のワークショップは駅伝練習について山口光治先生にお話をしました。山口先生からアドバイスをいただき、一緒に駅伝練習の応援をしていた宮原さんと話し合いをした結果、2 日目は中学 3 年生と一緒に走ることに決めました。一緒に走ってみると皆の凄さがわかりました。走るのが辛くなったとき「ファイトー！」と声掛けをしてみました。すると、私の声より大きく「ファイトー！！」という声が皆から聞こえてきました。励まし合いながら走りきったときは、心が通じたように感じました。まだほとんど皆と会話をしたことがありませんでしたが、あの瞬間は今でも忘れません。先生方が中学 3 年生の皆と一緒に走る意味がこのときわかったような気がしました。文章にすると伝わりにくいですが、あのときの感動は鮮明に覚えています。

今回の学習支援ボランティアを通して、小学生や中学生との関わり方で悩むこともありましたが、皆さんの一生懸命な姿を見て多くのパワーをいただきました。短い時間でしたが、とても良い経験となり、良い思い出となりました。被災地の現状を知ったうえで、今の私たちに何ができるのかを考えたとき、被災地について伝えていく必要があると感じました。雄勝町に訪れる機会があれば、成長した皆さんに会えたらと思います。また、3泊4日の間お世話になった亀山旅館の方々にも会いたいです。様々な方と出会い、お話ができとても良いボランティアになりました。



忘れられない雄勝の海

総合福祉学部 社会福祉学科 1年 宮原 舞

— 1日目 —

学習支援ボランティアの初日、千葉キャンパスの私ともう一人の友達は夕方千葉を出発したので、宮城に着いたのは夜だった。古川駅から旅館まで車で向かったのだが、街灯も全然無く真っ暗だった。こんなにも真っ暗な世界を私は久々に見たなと思った。今の時代、街灯もあるし夜遅くまで家の明かりがついていたりする。慣れない真っ暗な空間に少し怖くなった。旅館に着く手前で先生が海に寄ってくれた。暗闇の中に月が光り輝いていて、海の水面にはその光が一本の道のようにきらきらと映って揺れていた。ああ、なんて綺麗なんだろうと思った。月がきれいに見える時間帯まで海にいたことがなかったので、初めて見る景色だった。小説の中で出てくるような風景で、頭の中でしかイメージしたことなかった景色がその時、自分の目の前にあった。私にとって初めてのボランティアだった雄勝の学習支援ボランティアは、こんな素敵な景色との出会いから始まった。

— 2日目 —

この日はまず朝の散歩から始まった。先生も生徒も一緒に、早起きして旅館の周りを散策したのだ。昨日の暗く静かな海とは打って変わって、朝の元気な海をこの日は見た。宮城は空気が綺麗で気持ちがいいなと散歩をしながら感じた。旅館に戻り、とても美味しい朝ご飯をしっかりと食べた後は、このボランティアの第一の目的である石巻市立雄勝中学校に向かった。中学生が駅伝の練習をしていると聞いていたので、練習を見学させてもらったのだが中学生の若さと体力に驚かされた。私たちも練習に少し参加して、一緒に走ったりもした。実際に体験した分、中学生の辛さや大変さはすごくよく分かった。しかし、中学生との触れ合いの面ではコミュニケーションがうまくとれなかったり、仲良くなることができず課題点ばかりだった。一緒に走ることに意味はあるのか、私たちに何ができるのかという疑問もこの日生まれた。

その後は、雄勝スレートのお手伝いに行った。お手伝いの内容は、何枚もあるスレートを運んだり整理したり。スレートは薄いけれどしっかりと重みがある。八月の暑い中、少し作業をただけで汗が沢山出てきた。作業が一通り終わった後は、スレートを実際に自分たちでカットさせて下さったり割らせて下さった。自分たちで好きな形にカットしたものはお土産として頂いた。今、コースターとして家で使っている。作業の休憩の合間に雄勝の硯を作っている高橋さんから貴重なお話も聞かせていただいた。私たちの危機感の無さや、避難時に食料がないときは水やお茶よりも、エネルギーのあるジュースなどを飲んだ方がいいなど役立つ知識も教えて下さった。今、雄勝の海には防波堤が建設途中だった。それに対して反対している高橋さんは、防波堤を作るよりも県をまたいで情報を伝えられるようにするべきではないかとおっしゃっていた。数日しか滞在していない私が言うのもあれだが、私も防波堤には反対の気持ちだった。防波堤を作ったら海が見えなくなってしまうが、家の土地の高さも上げるので海は見えるから大丈夫だという話らしいが、そういうことではないだろうと私は思った。海を高いところから見つめるのではなく、海と同じ目線で生きて海と同じ目線で見つめる。海とともに生きてきた雄勝の方たちに、海との壁なんて作るべきではないのではないかと私は思う。防波堤を作る前に、雄勝の景観を

壊す前に、他にできることややるべきこと、大事なことがあるのではないかという高橋さんの意見に私も同感だった。今、建設されている防波堤は、とりあえず津波がきてしまったから作っておこうという風にしか捉えられなかった。雄勝の海は本当に美しい。まだ数日しか滞在していなかった私でも、この景観を、海を壊したくないという思いが強く出てきた。それくらい綺麗で、人々を魅了するのだ。2日目は現地の方と同じような立場に立って、雄勝の景観や海について深く考えた1日だった。

— 3日目 —

この日もまず駅伝の練習から参加した。前日に一緒に走ることに意味はあるのかと疑問をもったが、その日の夜の振り返りの話し合いで中学生と同じことをするだけでも相手と近づきやすくなったり、他者理解につながるという結論に至った。だからこの日は昨日以上に練習に参加し、みんなと一緒に走った。自分が辛い時でも、仲間を想ってファイトーと声を出す中学生たちに感動したし、人数が少ないからその絆や団結力が本当に素敵だなと感じた。走って汗を沢山かいた後は、小学生たちとプールに入った。プールだからこそ、初対面でも水をかけ合ったりふざけたりして仲良くなれた。雄勝の子どもたちとなかなか仲良くなれないと悩んでいた私にとって、小学生と一緒にふざけて遊べたことはすごく嬉しかった。あんなにはしゃいで、あんなに心から笑ったのも私自身久しぶりで、すごくいい思い出になった。その後、少しだけバドミントンの練習にも参加させていただいた。県大会に出ているということでもとても上手だった。

昼食を済ませた後、ローズガーデンの草取りのお手伝いに行った。外での草取りはすごく暑く、数分経ただけで汗がだらだらと出てきた。広いお庭を暑くても寒くても、丁寧に管理してお花や草木を大切に育てていてすごいなと思った。綺麗なお花たちに囲まれているあの空間はとても素敵なものだった。3日目はスポーツ三昧だったが、楽しかったと心から言える一日になった。

— 4日目 —

最終日は中学生との最後の触れ合いだった。大学生などが身近にいない環境だからこそ、私たちができる話、中学生が高校生活や大学生に期待やワクワク、夢をもつきっかけになるような話をしようと決めて話した。最後の最後に中学生とゆっくり話すことができて良かった。私が作っていった勉強プリントもみんな一生懸命取り組んでくれて、解説をしている時もうなずいたり、しっかり聞いてくれてプリントを作って準備した甲斐があったなと思った。今回、私たちと出会い関わったことで、中学生たちが何かを新しく感じたり、新しいワクワクが生まれたりしていたらうれしいと思う。少しでも役に立てていたら嬉しい。小・中学生のあの元気な笑顔にもう会えないと思うと、最終日はすごく寂しくなった。

初めてのボランティア活動だったこの4日間。雄勝中学校のグラウンドから見える綺麗な海も、綺麗なすぎる校舎も、自然がいっぱいなのも、方言があるのも、空気が綺麗なのも、ちょっとシャイな小・中学生も、優しい先生方も、温かい現地の方も、ホヤやウニなどの美味しい海の幸も、すべてが好きでした。行って良かったと思える、本当に素敵な3泊4日間でした。今回、目で見て肌で感じて学んだこと、経験したことを自分の人生やこれからに生かしていきたいです。今年1の夏の思い出になりました。ありがとうございました。



雄勝の夜の海



亀山旅館さんでの食事



朝の漁港



雄勝中学校のグラウンドから見える海



ローズガーデンのお花

石巻

人文学部 表現学科 1年 澤本 有咲

参加した目的

私は高校時代、クラブ活動で地震をテーマに活動していた。具体的には、南海トラフ巨大地震に備えて自分たちで考えた避難袋の展示を行った。また、地元の消防団に協力してもらい、煙体験を実施した。赤十字社からは東日本大震災のパネルをお借りし被災地の状況を伝えたが、訪れたことはなかった。そのため、この学習ボランティアをする中で被災地の現状を知りたいと思い参加した。この活動を通して、これからも続ける防災活動に活かしていきたいと考えている。

活動の感想

1. 雄勝小中学校

海が見渡せる新校舎。そこには様々な工夫があった。この学校は扉で区切ると、校舎を二つに分けることができる。こうすることにより、生徒が授業している間も地域の住民が使用できるようになっている。生徒だけでなく地域の憩いの場を目指しているようだ。

学習指導では、まず小学生低学年の勉強を見ることにした。時計の問題で分からず、困っているようだった。そこで、私は手助けのつもりでヒントを教えた。しかし、別の小学生がこう言っていた。「○○ちゃん、自分で解かないとお母さんに怒られるよ。」私は、どのように教えたらよいのか分からなくなった。また、中学生の学習指導では自分自身が得意な科目の先生として教壇で授業をするつもりだった。しかし、個々で行っている勉強で分からない個所のヒントを教えるというものだった。教えることは、思っているより難しいと実感した。臨機応変に対応する能力がなかった私は、初日に上手く打ち解けられず、声をかけられることも少なかった。このままでは仲良くなれずに時間だけが過ぎてしまうと感じた。そこで、これから通う高校についての自分の経験や将来の夢など、興味を持ってくれるような話をすることにした。初めは一方的だったかもしれない。だが、徐々に会話してくれるようになった。最終日には、生徒たちとの絆が深まったように感じる。

私たちとの出会いが息抜きになり、受験に打ち勝ってくれることを願っている。そして、楽しい学生生活を送ってほしいと思う。

2. 東日本大震災から学ぶ防災対策

地元の方はみんな「津波は、垂直避難だ」と口をそろえて言った。「遠くに逃げるのではなく、上へ垂直に逃げなさい。」この言葉は、雄勝の古い言い伝えでもあるそうだ。しかし、私たちがそのまま鵜呑みにはしてはいけない。「その土地の形状や地質によって、変化させていく必要がある」と雄勝花物語のスタッフがおっしゃっていた。

首都直下型地震では、地上は高層ビルのガラス片で足の踏み場もない状態になると予想される。そこに、東京湾からヘドロ交じりの津波が来たらどうなるだろう。

天災は忘れられたところにやってくる。どのような場所においても常に非常事態に備えることが大切だと感じた。そして、避難場所を把握することや防災グッズを用意することを心掛けたい。

3. 名産品

東日本大震災から約7年半、町は確実に復興し続けていた。地震で失われたものは数多くあるだろう。しかし、残っている名産品もあった。その中に雄勝スレートがある。一度は津波に流されたが、町中を探し回り集めたそう。震災後、町を離れた住民もいるため人手不足が続いているようだ。今回私たちは、スレートの選別作業を手伝った。一つ一つは軽いが、何十枚も集まると運ぶのは精一杯だった。だが、東京駅の屋根や料亭のお皿として使われる。私は、日本だけでなく世界中で使用されることが復興につながると思う。やがて、町を出ていった住人も戻ってきて、町内外から人が集まると考える。

その他にも、東北ならではの海の幸も堪能した。旅館の近くにある漁港で地元の方が、ウニを漁っていた。また、初日の晩御飯では生ウニをいただいた。新鮮かつとろけるような甘さに私は、病み付きになった。だが、一番は初めて食べたホヤだった。見た目のインパクトは大きいけど、中身はぷりぷりでおいしかった。特に、焼きホヤは私の押しの逸品だ。

現在、海を覆うように防波堤が建設中だ。完成すると、海が見られなくなるため観光面でも被害が及ぶと懸念していた。だが、津波対策として、防波堤は必要だ。防災と地域の住民たちが共存できる生活をこれからも模索してほしいと思う。



どのように
教えたらいいいのか
戸惑いつつも、
分かりやすく
伝えることを心掛
けて指導した。

最後はみんなで
記念写真。
三日間お世話に
なりました。



これからも
雄勝のシンボル
として、
アピールして
下さい。



初日から豪華なご
飯を用意していただ
き、ありがとうございました。



淑徳大学 東日本大震災復興支援プログラム

第6回 スタディーツアー

◆スタディーツアーの目的

東日本大震災の発生から 8 年が経とうとしています。被災地の復興が進む中、3.11 を風化させない「できることを。いま。ここから」をスローガンに、淑徳大学地域支援ボランティアセンターは宮城県石巻市雄勝町を中心に活動をしています。そこで、東日本大震災の被災地を訪問し、現地の方々のお話を聞き、「自分たちにいまできることは何だろうか」を考えるスタディーツアーを開催します。

◆スケジュール

日 程	主 な 活 動 内 容 (調整中のものを含め、変更する場合があります)
2/13(水)	07:30 東京駅集合(東北・上越・北陸新幹線 南のりかえ口改札) 07:56 東京駅出発(JR 新幹線はやぶさ 103 号) 10:08 一関駅到着 ～バス～車中オリエンテーション 12:00 陸前高田 「りくカフェ」 昼食(14:00 まで) りくカフェ運営者の講話 14:30 陸前高田市役所 (15:50 まで) 村上知幸さん(陸前高田市企画部商工課長)の講話 陸前高田市内視察 17:30 宿泊先(陸前高田 ホテル三陽)到着 19:00 夕食後グループワーク
2/14(木)	08:00 ホテル三陽 出発 09:00 奇跡の一本松:小山さん(高田松原を守る会)の案内(10:00 まで) 11:30 気仙沼 海の市シャークミュージアム/株式会社気仙沼産業センター視察(各自昼食)(13:00) 13:00 気仙沼港周辺および佐藤誠悦さん(元南三陸消防署福所長)(16:30 まで) 宮城県気仙沼市本吉町登米沢 104-3 18:00 宿泊先(宮城県南三陸町「民宿 下道荘」)到着 19:00 食後グループワーク
2/15(金)	07:15 民宿 下道荘 出発 08:15 大川小学校(下車)(8:45 まで) 09:15 農家 赤間家(10:45 まで)震災後、2 か月間避難所に食事を 700 食届けた拠点。 宮城県石巻市飯野字絵図沢8 11:45 宮城県牡鹿郡女川町視察(NPO コハルト・クロス・カムイミタラ)早坂久美 (場所:女川町まちなか交流館)(14:00 まで) 16:30 仙台駅出発(JR 新幹線はやぶさ 28 号)～東京駅 18:04 着 18:04 東京駅到着後解散

◆宿泊先

①ホテル 三陽(2/13)

〒029-2204 岩手県陸前高田市気仙町福伏 155-6

TEL:0192-55-3050 FAX:0192-54-5155

②下道荘(2/14)

〒986-0717 宮城県本吉郡南三陸町志津川字袖浜 146-3

TEL/ FAX:0226-46-6318

◆参加者 9名

キャンパス	学部	氏名	学年	性別
千葉キャンパス	総合福祉学部	小川 陽菜	2	女
千葉キャンパス	総合福祉学部	國井 遥華	2	女
千葉キャンパス	総合福祉学部	吉川 愛夢	3	女
千葉キャンパス	総合福祉学部	島田 夏海	1	女
千葉キャンパス	コミュニティ政策学部	石渡 千春	2	女
千葉キャンパス	コミュニティ政策学部	織原 彩寧	2	女
千葉キャンパス	コミュニティ政策学部	仲嶋 眞香	2	女
千葉第二キャンパス	看護栄養学部	三堀 愛実	1	女
東京キャンパス	人文学部	穴澤 拓実	1	男

◆引率者 3名

○コミュニティ政策学部 教授 芹澤 高斉(せりざわ たかなり)

○千葉キャンパス 職員 都外川 哲(ととかわ てつ)

○東京キャンパス 職員 中三川 和子(なかみがわ かずこ)

スタディーツアーを通して何を感じ何を学んだか

総合福祉学部 社会福祉学科 2年 小川 陽菜

東日本大震災から8年が経って当時、小学校6年生だった私も大学2年生になった。私が当初知っていたのはテレビで流れる津波の映像や、新聞で毎日取り上げられる被災地の様子だけだった。千葉県の自分が住んでいる町では大きな被害もなく、不自由だと感じることは食料の調達が少々不便になったことと、計画停電など本当に一時的なものであった。

他人事ではない、いつか必ず自分たちも体験する出来事かもしれないと思いながらも平和な日常を取り戻し安心しきり、日常の分厚さに負けながら8年が経ってしまった。そんな時大学で見つけたスタディーツアー。本当に漠然とした考えだったが被災地に足を運び、自分に今できることは一体何であろうか、そんな思いから今回のスタディーツアーに参加させていただいた。陸前高田市や気仙沼市、女川町などの街並みを見て率直に思ったことは、まだ至る所で工事をしている、プレハブの建物が連なっていて、以前はどんな景色が広がっていたのだろうかと思う殺風景が続いてまだまだ被災地の復興は終わっていないということだった。被災地の皆さんにとって古郷は完全に取り戻せていない、前の暮らしに戻っていないということだった。これは実際に被災地に足を運ばなければわからないことだった。そして3日間を通してたくさんの体験談、思い、信念、教訓を伝えてくださった東北の方々との出会いは、私の人生の中でとても貴重で忘れられないものとなった。

最初に訪れた陸カフェでは、初めて被災地を訪れたにも関わらず、とても温かく出迎えてくださり、現地の食材を使った美味しい昼食もいただいた。私たちの他にも地元の皆さんで店内はにぎわっておりとても心地よい空間がであった。地域の皆さんが気軽に立ち寄り、食事を楽しみながら会話をするコミュニティの場だと感じた。東北の方々には明るく私たちが元気をもらおうような場面がたくさんあったが、その笑顔と乗り越え、繋いできた時間の裏には私たちが想像を絶するような8年間があった。何もないところから始まった陸カフェ、跡形も無くなってしまった商店街、帰る家がなくなった人々、大切な家族を亡くされた方々、着の身着のまま、そんな状況の中でカフェを立ち上げることは、きっと誰もが想像し得ないことだと感じた。もし自分が同じ立場であったらと考えたら、何もできなく、毎日を生きることで精一杯で未来のことは考えられないと思った。陸カフェの鶴原さんは「振り返る暇もなかった。ただ前を向くしかなかった。」とおっしゃっていた。一言では表すことができないが、そこに人間の強さや生命力を感じ、胸がいっぱいになった。色々な人の支援と思いと繋がれ、完成した陸カフェ。鶴原さんは昔からの縁や、不思議な縁がたくさんあって今があるとおっしゃっていた。お話を聞きながら私自身も、人の温かさや助け合い、そして繋がりや出会いがいかに大切に掛けがえのない大きな力なのかということを実感した。それと同時に普通の生活ができることのありがたみ、自分がいざという時にどう行動するべきなのかを考えさせられた。震災を通して浮かびあがってきた課題を助け合いながら防災を学んでいくことも私たちができることなのではないかと感じた。そしていつ誰が被災するかわからない、「絶対」はないことを痛感した。

このスタディーツアーで自分の中で特に印象が強く感銘を受けたことは、佐藤誠悦さんとの出会いだ。

震災当時、気仙沼消防署で指揮隊長を務めていた佐藤さんのお話を聞きながら気仙沼の町を回った。移動中バスの中で見た気仙沼の火災の映像はこの日本で起きていたこととは思えず、フィクションなのではないかと思った。実際にこの中で犠牲になっていった人々がいたと思うと胸が苦しくなり、まるで戦後の日本を見ているようであった。

気仙沼の岩井崎に訪れた時、真冬の海沿いは刺さるような寒さで長くは立ってられない程だった。震災当時は雪も降っていて、薄着で屋根の上で助けを待つ人がたくさんいたと聞いて、どんなに寒く辛かったのだろうかと思った。また、海に浮かぶ黒いボールのようなものが当時、人の頭に見えてしばらく海を見ることができなかったと言っていて、あまりにもリアルなものであった。東日本大震災が被災地の方々の心に残していった傷跡はあまりにも衝撃的で大きすぎるものと感じた。それと同時に、こうして自らの体験を私たちに語り継いでくれる方がいること、そしてその事実を受け止め、私たちに語り継いでくれ、私たちが考えていくことがいかに大切であるかということがわかった。

佐藤さんのお宅で講話をしていただいた時に、奥様が亡くなられていることも語られたが、奥様の写真を見て、私は言葉にはできない悲しみを感じた。また、スライドを見せていただきながら、当時の様子を語りながら佐藤さんが涙ながらに、震災当時の地震の思い、葛藤、信念をお話されている時に、この方はどんなに深い悲しみを抱えているのだろうかと、私自身も共感し涙を抑えることができなかった。

佐藤さんのお話からは本当に多くのものを学ばせていただいた。それは、人との出会いや思いを形にしていくこと、相手を思いやり、思いを行動にすることである。こうして語り継いでいることは、生き残った者の使命であることを佐藤さんはおっしゃっていた。

この言葉を聞いて私は、命を諦めないこと、命を守ることを忘れないこと、生きる術を強く持つことを自分の心に刻み付けて生きていきたいと強く思った。

今回のスタディーツアーでの3日間は本当に色々な方々との出会いがあり、自分の人生においてとても重要な時間となった。私たちが今できることは、伝えていくこと、忘れないこと、そして様々な防災対策を行っていくことだと思う。東北で出会った方々が揃って口にしていた「津波てんでんこ」。これは東日本大震災が物語る教訓であり、自分の家族に話すことによって何かが変わってくるのではないと思う。

被災地の方のお話を聞き、改めて日常のありがたさを感じた。また、人々との出会い、繋がり、寄り添いの大切さを学ばせていただいた。しかしながら、人は時の流れと共につらいことも忘れ、繰り返す毎日の中に記憶を埋没させてしまうのであろうが、天災は忘れた頃にやってくる。このことを心にとどめ、これからは災害について真剣に考え、今回感じた思い、出会いを自身の人生に活かしていきたいと思う。

スタディーツアーで感じたこと

総合福祉学部 社会福祉学科 2年 國井 遥華

今回、私はスタディーツアーに初めて参加させていただきました。また、岩手県、宮城県にも初めて行きました。実際にスタディーツアーで私が何を見て、何を感じたのか、それぞれの場所を通して述べていこうと思います。

1日目は、岩手県陸前高田市に訪れました。最初に訪れたのは「りくカフェ」という場所です。ここでは、震災後の陸前高田市の状況や、自分たちがどのような生活や活動を行ってきたか、というお話を聞かせていただきました。私は、その話を聞いて1番最初に思ったことは、「衣食住が確保されていない生活は想像できないし、生きていきたいとも思えない」でした。話してくださった方にとっても失礼で、無責任なことを思ってしまったなとスタディーツアーを終えた今、強く思います。話してくださった方はもちろん、「りくカフェ」を運営している方々やそこに来るお客さんも、その生活を乗り越えてきた人たちになります。私は、その方々を心から尊敬しました。それと同時に、この方々の生きがいはどこから来たのだろうかと思いました。

次に訪れたのは、陸前高田市役所です。ここでは、震災後の陸前高田市の詳細な状況、今後の対策などをお話していただきました。先ほど「りくカフェ」では、住民からの視点でしたが、市役所の方は、住民をサポートする立場からのお話でした。私はここで、津波の恐ろしさを知ることになりました。そして、訓練や想定を信じすぎてはいけないことも知りました。想像するだけでも今でも心が痛いし、涙が出てきます。実際に被害にあわれた方々は、心の傷を負っているかもしれない、とようやく自分も経験したかのような、陸前高田市の市民の一員の目線で見られるようになってきたと思います。

1日目のラストは、宿泊先のホテルの職員さんから見た、震災後の陸前高田市の状況や周辺のホテルの動向をお話していただきました。先ほどの市役所の方とはまた違った目線で見えており、市内の実際の状況だけではなく、ホテルの利用客の職業からでも状況の移りかわりが分かる、というのは私の目線にはなかったので、新しいなと思いましたし、取入れいくべき目線だと思いました。

2日目の最初は、高田松原を守る会の方からのお話を聞かせていただきました。陸前高田市には、震災後に唯一残った奇跡の一本松があり、私も1日目に見させていただきましたが、震災直後、住民の皆さんの生きる希望になったのではないかと思います。ここで、私の中で「りくカフェ」の時に疑問に思っていたことがつながった気がしました。そんな一本松を懸命に守り続けてきた高田松原を守る会の皆さまからは、一本松への愛と、一住民としての力強さを感じました。

次に、宮城県気仙沼市へ移動し、海の市シャークミュージアムに訪れました。そこでは、お話を聞く形ではありませんでしたが、津波の映像を見ました。それを見ていた私は、頭が真っ白になりました。ここで初めて映像という形で現実を見た気がしました。私の想像をはるかに超えた状況が目の前で起きていたのです。スタディーツアーが終わった今なお、その映像が頭から離れません。それほど衝撃的な映像でした。

2日目のラストは消防士の方で、震災後に起こった火災を鎮火するために第一線で活動されていました。自然に囲まれた環境を破壊しつつす勢いで燃えていた炎が、まるで地域住民の傷をさらにえぐっているかのような感覚を覚えました。そして、ここでも津波の映像を見させていただきました。先ほどよりさらに残酷な状況で、津波はとても濁っていて何とも言えない色をしていました。この波がいくつも来ると、思考回路が爆発して、いろいろな感情が沸き上がってきて、気がついた時には涙が出ていました。これが「言葉にならない状態」と言うのだろうと思います。このような状態になったのは初めてで、本当に自分もその場にいたかのような体験をさせていただきました。とても貴重な経験だったと思います。

最終日の最初は、宮城県石巻市立大川小学校へと訪れました。見たものが全てを語っているかのようにでした。建物の骨格だけしかなく、中はほとんど残っていませんでした。震災前の学校生活の写真をみると、本当にここに学校があったのか、生徒たちが生き活きと学んでいた場所だったのか、と疑ってしまうほど、今残っている建物は無残な形をしていました。成長を見届ける場所で、多くの命が失われてしまったことはとても残酷で悲しいことだと感じました。

次に、農家の方のお話を聞かせていただきました。衣食住が確保された環境にいたけど、独り占めせず避難所の方々と分け合った、というお話を聞き、心温まる気持ちと、このような生活がいつまで続くのだろうかという避難所の方々の不安な気持ちが感じられました。

「人と人が支えあって生きている」ことの素晴らしさが、こうして目に見えて、耳に聞くことができ、私は幸せな気持ちになれた反面、このような感情を抱いてしまうのは不謹慎なのかなと葛藤していました。

最終日のラストは、宮城県女川町にて NPO 法人で活動している方のお話でした。震災後の女川町の状況や、避難所の方々の心境などをお話していただきました。他の市とは違った被災状況ではありましたが、それが逆に避難所に救援物資が届かなかったり、人間関係のトラブルがあったりしていたようです。先ほど、人間同士の助け合いを感じましたが、ここでは真逆のことを感じました。言い換えれば、被災状況と被災者の心の傷はイコールではないということです。被災状況が軽ければ、被災者の心の傷も浅いわけではない。また、復興完了したからといって、心の傷が治るわけではないと思います。

私は、地域支援ボランティアセンター（千葉）に所属しており、被災地の一つである宮城県石巻市雄勝町への復興支援を、間接的ではありますが活動してきました。しかし、その活動が本当に被災地の方々の支援になっているのか、実感できていませんでした。今回、参加させていただいて、住民同士の助け合い、ボランティアさんの支援が復興への道をつなげているのだなと強く感じました。そして、人間の無限大な可能性も感じました。私は、聞いた話を、そして感じたことを伝えていかなければならないと考えました。この経験が無駄にしてはいけません。いつか起こる震災に心の面でも備えなければ、と考えるようになりました。自分の感じ方、考え方を増やしてくれたお話をしてくださった皆さん、スタディーツアーの企画をしてくださった皆さんに感謝したいです。また機会があったら、ぜひ参加させていただきたいです。

最後に、震災で心の傷を負った方々が幸せに暮らせることを願っています。そして、一日も早い復興をお祈りしています。

2019 年スタディツアー

総合福祉学部 教育福祉学科 3 年 吉川 愛夢

今回のスタディツアーに参加した目的は、あの日のことを、テレビやニュースなどでは見るが実際に起きた事柄を自分の目で見たことはなかった。「大変だったであろう」と思いながら、それ以上考えることもなくあの日のことを自分の中で片付けていた。実際に現場に行き、地震の怖さを甘く見ていた自分と、被害の大きさを分かったような気になっていた自分に情けなく思った。何もわかっていなかった。しかし、何もわかっていないことに気が付けたのも、今回のスタディツアーに参加して分かったことである。あの日から 8 年。同じ日本に住む私は初めてあの日のことが分かった気がした。津波の怖さ、人の習性、自然の力には、勝つことはできないということ、遺族を亡くした苦しみ、残されて一人になった悲しみ、様々なことを色々な人にお話を伺うことと現場に踏み入れることで、より深く知ることができた。

一日目の「陸カフェ」では、家がなくなってしまった人、みんなが集える場所としてひらかれた場所であることを知った。帰る場所がないということはどんなに辛いことなのか、お話を聞いて心が痛くなった。実際に食べた食事は本当においしく、高齢者の方の味方だと思った。ただ、ごはんを提供するだけでなく、豆知識や、その日の食材の説明、噛むことの大切さを教えてくれた。その他にも、体操や散歩など様々な企画を行っている、街に寄り添った場所であると感じた。次にお話を伺ったのは、市役所の村上さんである。我が子を亡くされながら、街の復興のために最善を尽くされ、活動されている方であった。ここで聞いて驚いたことは、堤防を作ること一つにしても街のみんなの意見がバラバラであり、まとめるのが大変であったという内容である。あの大きな津波があったにもかかわらず、海を間近で見たいという思いも漁師さんも多いことに驚いた。

二日目は、奇跡の一本松を大事にされている小山さん、消防士の佐藤誠悦さんのお話を伺った。一本松を守ることの難しさ、大事にしていかなければならない責任感を感じた。佐藤さんは、実際にバスに同乗してくださり、その時の様子を説明してくださった。「ここから見えた景色が火の海だった」というお話や、奥さんの遺体発見現場、すべてが想像を超えるものであった。佐藤さんの家でプロジェクターを使い、説明してくれた内容、皆にお話ししてくれた内容を聞いて、この気持ちは実際に体験した人でなければ分からない、逆に分かったようにうなずいてはいけないのだと思った。つらい経験をされているのに、今語り部として、日本や世界に羽ばたいている佐藤さんを見ると、こんなにも強く生きている人はいないと感じた。少しのことで弱音を吐いている自分が情けなくなった。強く生きるという言葉に胸に、毎日を生きているとお話を伺ったが、簡単なことではないと思った。本当に心に残るお話を聞くことができた。

三日目は、震災時に一日 700 個のおにぎりを避難場所に届けたという赤間さんにお話を伺った。雰囲気も良く、ひとを和ませてくれる人だと思った。被災しているだけでも大変であるのに、何か人のためにできることをという思いで、行動している赤間さんが本当に素晴らしいと思った。お話を聞いてい

ると、おにぎりの中身で喧嘩になっているお話を聞いた。食べるものがあるだけでもいいのと思うが、長い期間避難場所の生活を送ったことのない自分であるから言えることであると気づいた。

三日間で様々な人に出会い、その時のお話を聞くことができたもの、諸先生方のおかげである。今回のスタディツアーでは、人の温かさ、人の強さ、そしていつ災害が来るか、それは誰にも分らないということを改めて気づかされるものだった。災害が起きた時に、どのように対応するのか、何を優先すべきなのか、いつでも頭に入れておかなければ、災害の時に対応ができないということ、これは当たり前のように思えて本当に難しいことであると思った。いまある当たり前の生活が当たり前ではないということが本当によくわかった。近年でも、関東に大きな地震が来るといわれているように、自然災害は防ぎようがない。今回は、東北であったが熊本、北海道でも大きな地震があり、被害を受けている人は多数いる。被害を受けていない人は、そのときのみのニュースでことが終わるが、被害者は、何年という月日をかけて復興を目指す。建物などが再建されても、心の復興を迎えるときは来ないのではないだろうかと思ってしまった。若くして命を失った人もいれば、残されて何もできない人がいる。どちらにせよ本当につらい選択であると思った。しかし、出会った人はその時のつらい悲しみがありながら街の復興のため、今後のためと私たちにその時の状況を話してくださり、話してくださった方の想いを考えると、簡単にできる体験ではないことを感じた。今回の体験を、一人でも多く話し、また機会があれば、活動に参加したい。

フィクションに思えた震災の当時と今から見つけたもの

総合福祉学部 社会福祉学科 1年 島田 夏海

東日本大震災当時、私は震度 5 弱の地震を経験した。しかし、被害は丸 1 日停電程度しかなかった。このこともあり、スタディツアーに参加する前、被災地の当時や今の現状についてはどこかテレビの中のフィクションの出来事のように思え、あまり現実味を帯びていなかった。事前学習で被害状況を自分なりに調べてみても被害が深刻だということが分かったつもりになっていた。現状についても、人々の心の傷についても。

移動中、街の様子を車窓から眺めていた。プレハブの陸前高田市の市役所、かさ上げ工事最中の土地、土砂を積んだ大型トラックが何台も通り、まだまだ終わったわけではないということがまじまじと伝わってきた。

ライフラインの復旧に時間がかかったことは、私も震災当時に経験していたこともあり想像できた。医療処置が必要にも関わらず医療機関に行けず「殺す気か」とあがる声、海から上がってくる遺体、津波にもまれ木にひっかかってくる全裸の遺体、火葬もできず棺桶も不足していたため遺体はビニール袋に入れて体育館へ、遺体を保管する体育館からは異臭、窃盗の多発による治安悪化などといった私には想像がつかないような出来事が震災当時に起こっていたことを知った。震災当時の気仙沼市はマイナス 6 度で天気は雪、服も凍る状況の中、津波は大島を越えて岩井崎まで押し寄せたという。元南三陸消防署副署長の佐藤誠悦さんは、岩井崎を見ながら、水面に突き出ている岩が人の頭に見えると語っていた。津波の恐ろしさや悲惨さを物語っていた一言で、その言葉を聞いていたら岩井崎から見る光景はただ美しいだけのものではなくなった。

メンタル面については、NPO 法人コバルト・クロス・カムイミンタラの早坂久美さんのお話が印象に残っている。具体的には、家族を亡くしたが家はある人々の苦悩と、女川町の子ども達が作りたいのちの石碑に刻まれている女の子の句についてだ。家族を亡くしたが家がある人と、家無くしたが家族はいる人ではどちらが軽くあしらわれやすいのかというと、それは後者である。話すこともつらい話題を話したにも関わらず軽くあしらわれただけではなく、物資をもらうにも家があるからという理由でもらうことができないことがあったという。最終的にはその家族は助けられたものの、家族心中を考えるほど心が病んでしまっていたとのことだった。いのちの石碑の句で「あいたくて でもあえなくて あいたくて」という句がある。この句は、母親が震災で亡くなり、父親と仮設住宅で暮らしている女の子の句で、母親に会いたいと思っても母親に代わり、慣れない家事に奮闘する父親を見るとそんなことは言えず、夜は泣いているといった背景がある。家をなくしても家族がいる一家と、母親を亡くした父親と生存した女の子もいる。当時は自分が助かったから良かったと思える状況ではないほど心の傷が深かったことが伺えた。様々な方たちから講話を聴くたびに復興途中の町の様子を見たことと相まって、改めて実際に震災や津波で被災したということが現実味を帯びてきたように思えた。

また、講話を拝聴する中で、被災地復興が進んでいるものの、課題もあるように思えた。

佐藤誠悦さんによると、気仙沼市では高齢者しか残らず、老人ホームの入所は 5 年待ちだとおっしゃ

っていた。陸前高田市企画部商工課長の村上知幸さんによると、陸前高田市では復興に向けて市の予算規模や職員体制の拡大を行っているが、震災で亡くなった人と同じくらい転居する人がいること、現在1年で子どもは100人しか生まれていないとおっしゃっていた。気仙沼市と陸前高田市だけでも持続的な市の運営が懸念されていることが理解できた。

現在、津波で被災した地域の多くは防波堤の建設が進んでいる。だが、講話をしてくださった方の多くは防波堤の建設に否定的な考えを持っていたことに驚いた。防波堤は安心感を与えるだけで油断を生む、あくまでも時間稼ぎでしかない、守ることよりも逃げるのが大切だと語っており、実際に津波を経験したからこそこれらの言葉は重く感じた。

杉ノ下区の慰霊碑付近や大川小学校のように、行政や学校側が指示したマニュアル通りの避難をしたらそのまま大勢の人が亡くなったこともある。防波堤ができて津波の時間稼ぎができたとしても「津波てんでんこ」を念頭に置いて、安全な場所だと信じて集まるのではなく、ひたすら高く遠いところに逃げる、どんな時間がかかっても集まる場所を決めておくことが大切だということを学べた。

講話をして下さった人々は震災を憎いと思っているものの、事実を受け止めた上で強く生きて、それぞれができる形で震災で得たものを後世に受け継いでいる姿が伺えた。

私たちにできることは、学んだことを一人でも多くの人に伝えること、何があってもまず自らの命を守ることだと考えられる。スタディーツアーに参加しなければ、3月11日に東日本大震災があったことしか記憶に残らず風化していく一方だったと思う。震災の被害の深刻さや今後の被災地復興の課題、防災意識向上の重要性だけではなく、命の重さと価値、震災の事実を後世に受け継ぐことの大切さを学ぶことができたことも有意義な3日間であった。

スタディーツアーレポート

コミュニティ政策学部 コミュニティ政策学科 2年 石渡 千春

私は今回のスタディーツアーで、当たり前や命の尊さを強く感じ、人と人との繋がり大切さを学びました。言葉では簡単に当たり前のありがたさや命の大切さを語ることは出来ますが、被災地に実際に足を踏み入れ、被災された方々のお話を聞くと、そう簡単に発してはいけないものだ痛感しました。

一日目の陸カフェでは、現在中心となって運営されている方々からお話を伺いました。お話して下さったのは、鶴浦さんという方でした。運営されている方々はほとんどの割合で被災していました。その時伺ったお話は、仙台市内の様子でした。仙台駅前の商店街は震災前、非常に繁盛していて様々なお店で賑わっていたのです。しかし震災で商店街や鶴浦さんの自宅は被災してしまいました。精神的にも全ての面でどん底にいたときに、ご近所であった吉田さんという歯科を営んでいるご夫婦と、その繋がりの方々によって支援物資といった生活に必要なものを少しずつ得ることができたそうです。そしてこの陸カフェも、NPO 法人として活動して、今ではたくさんのママ友さん達を招いて共に活動されています。ここでは思いがけない人間関係が希望につながり、今に至っていることを知り、諦めずに声を掛け続けることが、自分だけでなく他の人々にも良い影響を与えることを痛感しました。

二日目の元南三陸消防署副所長の佐藤さんのお話はとても衝撃的でした。佐藤さんは気仙沼で発生した火災を受けて出動しました。副所長としての任務を果たすため、そして気仙沼を火災から救うため、最後の最後まで任務を全うされました。しかし、無念にも奥様が被災され、亡くなってしまいました。私はそこで、一つの命の尊さを思い知らされました。そこで佐藤さんの「自分は人の命を救うことが仕事なのに、お前の命は救えなかった。本当に申し訳ない。」という言葉が忘れられません。佐藤さんによって救われる命もあれば、最愛の人を失ってしまうのだなと思うと、涙が止まりませんでした。また、私の父も消防士として働いているので、佐藤さんと父を重ねてお話を聞いてしまい、とても胸が苦しくなった一方で、それだけ自分自身の仕事について誇りを持っているのだとわかると、私もこのように誰かのためになれる人になりたいと強く考えました。また、副所長として周囲を引っ張っていくことに関して、大事なポイントも教えていただきました。三つの条件があり、一つは「努力」、二つ目は「環境」、三つ目は「素質」です。努力することは大前提とし、私自身は環境、そして素質の面を考えました。今私たちは何の不自由もなく、普段通りの生活を送ることができています。だからこそこの今の環境に感謝し、存分に生かしていかなければなりません。素質の面でも、自分自身の性格で諦めるのではなく、考え方を柔軟にしていかなければならないなと実感しました。

沢山のお話を聞かせていただきましたが、私がこのツアーで印象的だった言葉は、「辛いことから逃げてもいい」という佐藤さんの言葉でした。私はその言葉に驚いてしまいました。辛いことから逃げずに立ち向かうことこそが人々を救う方の考え方だと思っていたからです。しかし、その謎はすぐに解決しました。私達が自分の身を守るためには「自助・共助・公助」です。お話していただいた方が口を揃えて発したことは、「まずは自分優先で逃げる」ということでした。だから自分が滅入ってはいけないから、自分優先に、自分を大切にしようということだったのです。

私達が経験した東日本大震災から今年で 8 年が経とうとしています。そして今年で平成も終わってしまいます。この震災から目を背けずに東北へ足を運び、お話を聞くことができて心から良かったと思っています。今大切なことを知ることができたので、感謝し、必ず糧にして未来に繋げていきます。

スタディーツアー報告書

コミュニティ政策学部 コミュニティ政策学科 3年 織原 彩寧

「こんなにも大きな大震災だったんだ」と思わせられた1日目

2泊3日でのスタディーツアーの最初はリクカフェ。リクカフェではとても美味しいご飯を頂きました。私は普段、味が濃い目のものばかり食べているので味が薄いのかも？と聞いてどうなのかと思いましたが、全然薄くなく丁度良く、とても美味しく頂きました。

リクカフェの成り立ちなど、スタッフさん達のたくさんの思いが詰まった素敵なお店でした。

今回のスタディーツアーで一番印象深かったのは2日目の、佐藤さんのお話を聞きながらバスで被災地を回ったことでした。初めて東北、被災地に行って目にしたことは、8年たった今でも被災地の跡はたくさん残っていたことでした。「もう8年だよ？」と思いながら、8年たって回復できているもの、できていないものもあると思いながら、被災地を車で走りながら考えていました。地震があったことを知らない人がこの光景をみたら、普通に工事をしているようにしか見えないだろうというようなことを、私は考えていました。

そんなことを考えながら、佐藤さんの自宅でのお話を聞くことになりました。佐藤さんのお話が私の心にとっても響き、話を聞きながら涙が止まらなくなりました。辛いことと向かい合いながら、私たちに想像が及ばないような、被災体験のお話をして頂きました。

私はテレビなどで放映される津波の映像やその時の状況をずっと避けてきました。それでも向かい合おうと思い、佐藤さんの話を聞きながら、私の被災体験を思い起こしてみました。被災当時私は小学校六年生で東京にいました。帰宅すると、家の棚が倒れ、交通機関が止まり母親がなかなか帰ることができず、私は不安になり、母に会えた時に号泣したことを思い出しました。東京での体験ですら辛いと感じた私に、もし東北に私がいたらと考えたら、不安と恐怖で耐えられなくなりそうでした。

その後みんなで思っていることを話す機会があり、それぞれの思いを持つみんなの話を聞くことで、私も初めて震災当時の自分の話をすることができました。

佐藤さんの話を聞いたことは、私の中でとてもいい経験となり、心に残るものとなりました。

3日目は、大川小学校に行きました。被災した当時のままの風景は、当時の凄惨さを物語っているものでした。あまりの光景にわたしは絶句してしまいました。ここでどれだけの子ども達が亡くなって、どれだけ怖い思いをしたのかと考えさせられることがたくさんありました。

私がスタディーツアーに参加した理由は、「1回でいいから東北に、被災地に自分の目で、足で行きたい」という思いからでした。1人でボランティアなんて行けないしもう行く機会はないかと考えていた時に出会ったのが、この東北スタディーツアーでした。ご縁があって先生にお話しをいただき、行ってみようと思い参加しました。別のプロジェクトと一緒に活動していた人も参加するというので、とても心強かったです。仲間がいることで意見も共有することができ、私にとってはとても良かったです。3日間をみんなと一緒にいることで、沢山話することができ仲も深まりました。キャンパス、学部、学年も違う人達とも話すことができ、少し打ち解けられた気がしました。

私は将来観光業に就きたいという思いがあり、東北に行ったことが無かったので、観光という点でも見てみたいと考えていました。東北は景色と空気がとても綺麗でした。被災前の写真も見せてもらい、それがとても素敵だったのでいつか復興が終わって私が観光業に就けたらぜひお勧めしたい場所です。スタディーツアーで出会えた人との繋がりや出会いをすごく貴重なものだと思えました。人と人の支え合いを目にして、自分の目で見て感じることは、現地に直接行ってみないとわからないと私は感じました。今回のスタディーツアーではたくさんのものを得られ、ショックが強かったものもありましたが、それも含め初めて感じたもの、改めて考えさせられたもの、たくさんのものを得られました。この考えをなにかに変えられないだろうかと思います。そんな人達との出会いを忘れずに、私はこれらも生きていきたいです。また、機会があれば参加して、今度は別の観点から見てみたいと思いました。

スタディーツアーを通して「何を感じ、何を学んだか」について

コミュニティ政策学部 コミュニティ政策学科 2年 仲嶋 眞香

申し込み当時、2011年3月11日午後2時46分に発生した東日本大震災から8年が経過しようとしていた。

そして私の誕生日が3月11日なのである。20歳を迎える直前にこのような機会があることは、偶然ではないと思った。また、自分の誕生日に起こったことに対して興味があったことから行かなくては、と思ったことがスタディーツアーに参加しようと思ったきっかけである。

結論から言えば、今回のスタディーツアーに参加してとても満足している。

そては、何年も苦しく厳しい生活を送られていて尊敬しつづける3日だった。

1日目に新幹線から降りたときは身に染みる寒さ「寒い」しか言えなかったことを覚えている。

そんな中、最初に伺ったのは「りくカフェ」のイノウラさんのお話である。

イノウラさんらが苦しい生活を送られる中でも、りくカフェを誰でも気軽に集まれる場所として、たくさんの方の協力によってつくられ、現在の姿になったというお話を聞き、現状に至るまでの厳しい生活の内容や近情、活動について教えていただいた。

しかし、町の人と外部の人につながってもらうために、誰でも気軽に集まれる場所としてつくられたのだが、口コミが広がり、町の人より、外部の人のほうが多く集まるようになってしまっていることが問題であるとして教えていただいた。また、NPO法人として活動を行っていく中で、震災から復興しているがゆえに援助が減ってきており、今後の経営が問題となっていることも教えていただいた。

次に伺ったのが陸前高田市役所で働かれているムラカミさんのお話だ。

苦しすぎるムラカミさんの生活や市の職員としても動かなければいけない苦しさを伺った。そのお話の中でとても印象に残っているのが、「必ず前を向けるときは訪れる。」と言うムラカミさんの言葉だ。様々な苦しさを経験されたムラカミさんの話を聞いた後だからこそ印象に残った言葉だった。

1日目の最後には、宿泊したホテル三陽の従業員の方からお話を伺った。

ホテル三陽が営業を行うために必要な建物はあってもライフラインが使えないため、営業が行えず、イノウラさんやムラカミさんとは違った苦しさがあったそうだが、工事関係者やボランティアの人が宿泊することによってホテル三陽から出ることができなくても高田の復興状況が分かったという。

ホテル三陽の方のお話で一番聞いてよかったと思ったのが、ボランティアに行くときには、情報を確認して、現実を認識して現地を配慮してから行くべきであること、被災地では、カーナビはあてにならないことである。

2日目の初めに伺ったのがNPO松原を守る会のオヤマさんとタクミ印刷のクマガイさんのお話だ。クマガイさんによれば、津波によって3トンある印刷機が消え、30トン以上ある石造も動き一度は会社を辞めようかと思った時もあったという。しかし、名刺や印刷屋としての機能を求めてくれる人がいるおかげで一番つらかった時期も乗り越えることができたという。

オヤマさんは自らの体調や生活の苦しさを後回しにして一本松を守るために何日も何週間も発電機を動かし続けたというお話を伺った。ほかにも一本松に接ぎ木を行う活動や植林の活動が行われているそう。

そしてお2人は今回、「津波てんでんこ」という言葉を「津波が来たら、取る物も取り敢えず、肉親も構わずに、各自てんでんばらばらに一人で高台へと逃げろ」「自分の命は自分で守れ」という防災教訓を私たちに教えてくださった。

その後、バスに乗り込んで私達と一緒に市内を周っていただきながら、佐藤さんのお話を伺った。

実際に被災した街中をバスで走りながら3月11日の津波の状況や数々の悲惨な状況をお話していただいた。ここはこんな感じだったとか、ここを車で走る私を津波が追いかけてきたとか、実際に降りて歩いたりしてとても詳しく教えていただいた。話を聞くだけでは、本当に佐藤さんの脳裏にある映像を想像することはできないが、その話を聞くだけでも身震いがするような貴重な話を聞いた自信がある。

バスを降りて佐藤さんのご自宅で、震災直後の様子について臨場感のある写真と佐藤さんの語りを固唾を飲んでお話を伺ったのを今でも鮮明に覚えている。

最終日の最初にお話を伺ったのが、農家の赤間さんだ。

震災直後の食料にもインフラにも困っているときに炊き出し要請に応え毎日700個以上のおにぎりを1カ月以上近隣の農家と協力して作り続けたというお話やおにぎりの具の違いやおしんこの有無で喧嘩が起こったこと、次々に発見される死体について近隣の人と協議したことを伺った。

また、食料があり、井戸が残っていて、軽油や灯油がある農家は強いことを教えていただいた。そして、第二のふるさとをいただいた。ぜひまた赤間さんの家にお邪魔したいと思っている。

そして最後に女川へ行き、早坂さんのお話を伺った。

被災した東北で害虫やにおいに困っていた仮設施設のために早坂さんは、出身地である北海道のモミサクエキ 1000 トン以上を使用し、仮設施設を少しでも苦でない空間にするためにご尽力されたそうで、自ら噴霧作業を行うだけでなく、モミサクエキを配る等の活動のお話も伺った。また、当時津波が高台にある病院の手前まで津波が来たという話を聞いて帰りのバスの中から早坂さんのお話に出てきた病院が見え、自分たちが走っていたところはすっぽり津波に飲まれてしまうことに鳥肌が立った。

最後に、繰り返しになってしまうが、お話を聞かせていただいた皆様はとても強く、前を見て今を生きしており、ただただ皆さまを尊敬し続けた3日間だった。

スタディーツアーに参加して

学部看護栄養学部 栄養学科 1年 三堀 愛実

私がこのスタディーツアーに参加した理由は、3.11 の情報についてテレビなどのニュースでしか知ることができなかったので実際に話を聞いて学びたいと思ったから、また、8 年たつ今、被災地はどのようなになっているのかを実際に目で見たいと思ったからである。

今回初めて被災地に行き、たくさんの方々がお話、案内をして下さって様々なことを学び、気づかされ、考えることがたくさんあった。

実際に津波で破壊された建物を見て、衝撃だった。コンクリートがねじれて壊れていたり、自分の身長をはるかに超える高いところまで津波が襲った形跡があり、言葉が出なかった。ただ波が襲ってくるだけではなく、がれきの山が襲ってきたり、目の前で人が流されてしまったりすることもあったと知り、想像するだけでも怖いと思った。

避難所や高台に避難していても被害があった人はたくさんいたと聞き、その理由の一つは多くの人が集まっていると安心してその場にとどまってしまったからであった。『誰かがいるから大丈夫』という考えではなく自分で良いのか悪いのかをよく考えて行動をし、周りの人にも伝えることがとても大事なんだと感じた。

命が助かって避難所にいてもごはんがなかなか食べられない、水もない、帰る家もない、精神的にも辛い状態で何日も過ごし、食事をもらったとしてもおにぎりを 4 人で 1 つが良い方だったり、お風呂も 3 週間以上入れず、6 月にやっと水が出たりなど思ってた以上にひどかった。今私が家族や友達などと当たり前のよう過ごしていることが、どれだけ幸せでありがたいことなのかを知り、心が痛くなった。

また、元南三陸町消防副所長の佐藤さんに話を聞いたとき家族を心配しながらも他の人をたくさん助け、とてもつらい状況で活動していたことを知り、誰もがができるようなことではないと思った。今まで消防や自衛隊など人を助ける仕事をしている人の気持ちをよく考えたことがなく、話を聞いてもっと感謝しなければいけないと改めて感じた。佐藤さんは私たちに『つよく』という言葉が書かれたものをくれた。私なんかより絶対に大変で辛い思いをしているのに、前を向いて今を頑張って生きていて、私がかもっていた悩みなんかは本当にちっぽけなことだと感じた。佐藤さんと出会い、今があることに感謝し、強く生きることを胸に毎日精一杯頑張らなければいけないなと思った。

このスタディーツアーの帰りの電車で『今地震がきて津波が来るとなったら』ということ考えた。夜だったので停電したら真っ暗だし、高台もどこにあるのかわからない。このまま家族や友達と会えなくなるということも考えたらすごく怖くなり、涙が出そうになった。その後ディズニーランドに行った時もそうだった。陸前高田市役所の方に話を聞いたとき、ディズニーランドで津波が来た時のことを考えるといまだに行けないと言っていてそれを思い出した。大人数が高い場所に避難するとしたら 1 つの建物に限られた人数しか避難できない、液状化も考えられるのでどういう状況になるのかとても不安になった。このようなことを最近どこにいても考えてしまい、怖くなり、不安になる。普通に生活している中でいつ地震が起こるかわからない恐怖を今までよりも感じるようになった。たくさんを知り、怖いと思うことも多くなったが、少しでも地震について考えていることが、もし地震起きたときに役に

立ち、行動できるのではないかと思う。

3.11 から 8 年が経ち、被害がなかったところは当時のことを忘れかけていたり、深く考えていなかったりする人が多いと思う。大きな地震が予測されている今、できるだけたくさんの方が震災への意識を高くし、常に安全を考えることが命を守ることに必要なことだと思った。今回被災地に行って、かさ上げや防潮堤など津波対策をしているのを初めて知り、波が防潮堤を超えてくる可能性もあるが、ないよりはいいと思うと言っていた。それに比べて、千葉県はどうだろうと思い、調べてみると 3.11 で被害があったところは対策をしていた。しかし海が近くても特に被害がなかった私の市や、知っているところで海が近いところは何も対策をしていなかったの、私は怖さが前よりも増した。簡単にはできるものではないと思うけれどももっと考えてどここの場所も対策をするべきだと思う。

被災地の復興は、新しい建物もあったがまだ道路の工事をしていたり、まだ家を建てられないところがあったりなどまだまだ完全ではないと感じた。私たちが被災地のために今できることは何かと考えてみると、実際何をしたらいいのかわからなかった。しかし 1 本松のボランティアや様々な活動があると聞いたので、参加して少しでもたくさんの人を元気づけることができたらいいなと思った。そこでまた何ができるのかを気づけるかもしれない。機会があれば積極的に参加したいと思う。

今回被災地で出会った方はどの方も初めてあったとは思えないくらい優しく、笑顔で明るく接してくださった。話をしてくださるなかで、家族などを亡くして思い出だけで辛いのに、私たちのためにたくさんの方のことを涙ぐみながら、涙を流しながら話してくださり、被災地の状況をあまり知らなかった私は感謝しきれないと感じた。

3 日間という短い時間だったけれど得たものや学んだものが本当に多く、忘れられない時間を過ごすことができた。また自分自身でたくさん考えることができたと思う。今回学んだことをそのままにせず、多くの人に伝えていきこれからの生活に活かしていきたい。



「スタディーツアーで学んだこと」

人文学部 歴史学科 1年 穴澤 拓実

今回、私はこのスタディーツアーを通じて様々な経験をし、防災というものにより深く考えさせられるきっかけになりました。今回のスタディーツアーでは、陸前高田市の「りくカフェ」をはじめ、東日本大震災で被災した地域に訪れて、実際に被災した地域の方々からその当時の被害状況などのお話を聞くなどの貴重な経験が出来ました。それと同時に、東日本大震災から今年で8年を迎えますが、陸前高田市の沿岸部ではまだ建物がほとんど建っておらず、震災の爪痕が徐々になくなっていっているのが感じられる一方で、完全復興にはまだ時間がかかるのだと感じました。

スタディーツアー一日目では陸前高田市役所に訪れ、陸前高田市役所の村上知幸さんから東日本大震災による津波で被災した陸前高田市内の状態や現在の復興状況などの説明をしていただきました。その際に、今後の防災対策の一環で、防潮堤や土地のかさ上げなどのハード面の強化を行っているのがわかりました。また、道路や公共施設の整備、高田松原津波復興記念公園や高田地区中心市街地の整備を行い、今後の陸前高田市の復興に向けて市が動いているのが感じ取れました。しかし、その復興計画の中にも今後の防災に対しての懸念要素があるのもわかり、防潮堤を建てたことに生まれる安心感によって、津波に対する油断の懸念や、市役所新庁舎の移設場所がやや低い場所になるために、今後また同規模の津波が発生した場合には市役所が被災する可能性が高いなどの不安要素もあるのもわかりました。そのため、ハード面と同等に、定期的に行う避難訓練などのソフト面強化もとても重要なことだと思いました。

スタディーツアー二日目では、宿泊先のホテルで高田松原を守る会の小山さんから奇跡の一本松のお話をいただきました。震災前の高田松原は日本百景にも選ばれるほどの景勝地でしたが、東日本大震災の津波の直撃を受けてほぼ壊滅してしまったとのことで、唯一残ったのが復興のシンボルとして有名な「奇跡の一本松」だけでした。現在の奇跡の一本松は本物を模したレプリカであって、実物は津波を受けた影響によって腐ってしまい残念ながら枯死してしまったとのことでした。現在では、松原の景色を取り戻すために苗木が行われていて、県外から数多くのボランティアの方々に参加されているとのことでした。午後には宮城県気仙沼市に移動し、震災当時に南三陸消防署副所長であった佐藤誠悦さんから気仙沼市で発生した津波火災の説明をしていただきました。移動中のバスの車内で、津波火災のドキュメンタリービデオを見ながらその当時の状況を解説していただき、海上火災の延焼を食い止める努力が行われていたことがわかりました。そして、気仙沼市をバスで回り、東日本大震災の津波被害があった場所を見学しました。津波で被災した気仙沼向洋高等学校の旧校舎は震災遺構として残っており、津波の生々しい爪痕を間近に感じる事ができました。校舎の三階部分にまで津波が到達したということで、海側の校舎窓やコンクリートがぼろぼろに破壊されているのが確認でき、津波の威力がかなりあったということが感じ取れました。また、気仙沼向洋高等学校の旧校舎の近くに、大勢の避難した人が津波で流されて亡くなった場所があり、そこには慰霊碑と津波が到達した高さまである高台が設置されていました。この慰霊碑に黙とうした際に、佐藤誠悦さんは「自分が正しいと思ったことが正しくなる、

決して間違いではない」と仰っていました。その言葉には津波の脅威を身をもって経験した佐藤誠悦さんだからこそ感じた思いがあったのだと思いました。その後、新たな防潮堤を建設している場所に見学させていただき、佐藤誠悦さんの自宅にて東日本大震災の被害状況とその活動について教えていただきました。語り部の佐藤誠悦さんのお話を聞き、災害という考えが変わった一方、防災についてとても勉強になりました。

スタディーツアー三日目には、宮城県石巻市にある大川小学校の跡地に行きました。大川小学校の悲劇のことは、私が防災士の資格を取得する際にセミナーの講師の方からお話を聞いたことがあったので知っていましたが、実際に現地に訪れたことによって、より深くその現実に共感することができました。大川小学校は、東日本大震災の津波の被害で、74名の児童と10名の教職員が犠牲になった場所です。この大川小学校に着いた時に感じたことは、「なぜ、目の前の山に登らなかったのか」「もし、避難する方向が川ではなく山であつたら」でした。大川小学校の目のまえには大きな山があり、そこにさえ登っていれば犠牲者がでなかったのではないかと感じました。しかし、校庭に避難したときに「集団心理」というものが働いてしまったようで、それによって、人が集まっているところに安心感が生まれ、他地域出身の教職員しかいなかったことなどの不運な連鎖が連なり、山に避難するという選択肢が通らずにこのような悲劇が起こってしまいました。このような悲劇は二度と繰り返してはならず、それと同時に集団心理の怖さを感じ取りました。

大川小学校跡地を見学したあとに、農家の赤間さんのお宅にてお話を聞くことが出来ました。震災が発生したときに、赤間さんのお宅は避難所に食事を届ける拠点となり、日々疲弊する避難所の被災者のためにおにぎりなどを作られたとのこと。具材の量によって被災者同士でのトラブルなども多々あり、震災後の状況はとても緊迫していたことがお話の中から感じ取れました。また、東日本大震災によって亡くなられた方々のご遺体の安置にも問題点があり、臭いやカラスに襲われる危険性があったことから、ご遺体をビニール袋で簡易的に覆った後に、土に埋めて仮安置を行ったというお話も聞きました。このことから、震災後に問題となるご遺体の管理の仕方を見直す必要があると思いました。日本では縁起が良くないと避けられがちですが、重要視する必要があると思います。

午後には宮城県女川町に移動し、NPO法人の早坂久美さんのお話を聞くことが出来ました。早坂さんのお話の中では、女川町の津波被害について解説があり、引き波によって渦が発生したなど、発災後に七十七銀行女川支店では行員を高台に避難させずに屋上に避難させたために行員が津波に巻き込まれて亡くなってしまったなどの説明がありました。早坂さんが震災後にボランティア活動として活動した話を聞いて、震災後に重要なのが人と人が助け合うことだと感じました。震災後は、家や家族を無くした喪失感から助け合うことが難しく、例え住める状態でなくとも家が残っていることによって食料等の配給に優先順位が発生するという厳しい現状があるというのも学びました。

今回、このスタディーツアーに参加して気が付いたことは、実際に現地に行って、現地の方々にお話を聞くことはとても重要な事だと改めて思ったことです。今回、お世話になった語り部の方々にも大事なご家族を震災で亡くされている方がいらっしゃいました。東日本大震災は、今年で8年を迎えます。「震災は、忘れたころにやってくる」だからこそ、過去に起きた災害を忘れてはいけないうし、今後必ずやってくる災害に私たちは備えていかなくてはならないと、このスタディーツアーに参加して再確認させら

れました。平成が終わる前に東日本大震災で被災した地域に足を運べたことはとてもよかったと感じる一方、この現実を忘れてはならないし後世にしっかりと伝えていかなくてはいけないと深く感じさせられました。この経験を活かして今後の防災に役立てていきたいと思います。

最後に、大変お忙しい中このスタディーツアーに時間を頂いた方々に感謝申し上げます。





淑徳大学 東日本大震災復興支援プログラム

第9回 パネルシアターキャラバン

◆目 的

東日本大震災の発生から8年が経とうとしています。被災地の復興が進む中、3.11を風化させない「できることを。いま。ここから」をスローガンに、淑徳大学地域支援ボランティアセンターは宮城県石巻市を中心に活動を継続しています。

淑徳発祥の「パネルシアター」を担いで、被災地の保育所や高齢者施設の巡回を毎年行っています。パネルシアターを通して多くの笑顔が花開くように広がることを願いながら続けています。今年は、宮城県の石巻市だけでなく、山元町も訪問します。自分たちの上演するパネルシアターでこどもたちをはじめ、被災地大人の方々とも貴重な交流をしましょう。9回目の取り組みとなります。

実施行程表(2月24日～26日)

日 程	主 な 活 動 内 容 (変更する場合があります)
2/24 (日)	08:00 淑徳大学 千葉キャンパス 出発 (千葉出発組) ◆河原美波、古賀慎一郎、都外川さん 09:00 池袋サンシャイン (プリンスホテル隣接の東池袋中央公園) 集合 (池袋出発組) ◆石井優斗、岩出旬平、並木藍、門脇実希、富士あやめ、原秀仁、藤田先生 09:15 引継ぎ後、都外川さん下車し、出発 14:00 山元町 到着 (岩佐先生と合流) ～ 防災センター「山元町ひだまりホール」、震災遺産、特産物などの視察 16:30 山元町 出発 19:00 石巻の宿泊所 到着 (夕食後、ミーティング) : 亀山旅館
2/25 (月)	08:00 宿泊所 出発 09:30 「水押保育所」到着・準備 ※園庭の端に駐車 10:00～10:50 パネルシアター公演・交流 (子ども: 62名) 11:30 「水押保育所」出発 11:45 「石巻市立子どもセンター」到着・準備 12:30～13:00 子育て支援の場でパネルシアター公演・交流 (親子: 30～80名) 13:30 石巻市内 昼食・視察 (日和山公園、資料館視察、語り部など) ～16:30 石巻市内 出発 ～ 大川小学校 経由 18:00 宿泊所に到着 (夕食後、ミーティング): 亀山旅館
2/26 (火)	08:50 宿泊所 出発 (清掃・ご挨拶) 09:30 飯野川保育所 到着 10:00～11:00 パネルシアター公演・交流 (子ども: 49名) 11:30 飯野川保育所 出発 11:45 道の駅 上品の郷(お土産、昼食) ～13:00 出発 ～東北自動車道を通って東京へ～ 18:00 池袋サンシャイン 到着 19:30 淑徳大学千葉キャンパス 到着

＜パネルシアターキャラバン 訪問先などの 関係施設所在地＞

	施設名	所長・代表者	住所	電話
1	水押保育所		石巻市水押2-11-20	(0225) 95-8130
2	石巻市子どもセンター (愛称:らいつ)		石巻市立町1-6-1	(0225) 23-1080
3	飯野川保育所		石巻市相野谷字本屋敷23-2	(0225) 62-2355
4	石巻市復興まちづくり 情報交流館「中央館」	リチャード館長	石巻市中央2-8-11	(0225) 98-4425
5	石巻市復興まちづくり 情報交流館「雄勝館」		石巻市雄勝町上雄勝2-36	(0225) 25-6028
6	東日本大震災メモリアル 南浜つなぐ館		石巻市南浜長3-1-24「がんばろう！石巻」看板隣接 ※開館日時:土日祝 10:00～15:00 金 13:00～15:00	(0225) 98-3691 (みらいサポート石巻事務所)
7	日和山公園			
8	門脇小学校			
9	大川小学校			
10	いしのまきげんき市場		石巻市中央2-11-11	(0225) 98-5539
11	かわまち立体駐車場		石巻市中央2-6-11	(0225) 93-6448
12	加藤菓子店		石巻市築山1-1-119	(0225) 22-5642
13	道の駅 上品の郷		石巻市小船越字二子北下1-1	(0225) 62-3670
14	亀山旅館		宮城県石巻市雄勝町大須 218-2	(0225) 58-2025

参加者

	名前	性	学年	所属
1	河原 美波 (かわはら みなみ)	女	2年	総合福祉学部教育福祉学科
2	並木 藍 (なみき あい)	女	2年	教育学部こども教育学科
3	門脇 実希 (かどわき みき)	女	1年	教育学部こども教育学科
4	富士 あやめ (ふじ あやめ)	女	1年	教育学部こども教育学科
5	石井 優斗 (いしい まさと)	男	1年	教育学部こども教育学科
6	古賀 慎一郎 (こが しんいちろう)	男	1年	教育学部こども教育学科
7	岩出 旬平 (いわで じゅんぺい)	男	1年	教育学部こども教育学科
8	原 秀仁 (はら ひでと)	男	1年	教育学部こども教育学科

指導・引率者：淑徳大学教育学部 藤田佳子准教授

「忘れてはいけない」

総合福祉学部 教育福祉学科 2年 河原 美波

- 日時 2月24日（日）～2月26日（火）
- 場所 宮城県山元町・宮城県石巻市

私が今回、「パネルシアター・キャラバン」への参加は、二回目である。去年は、パネル未経験者の上、先輩がいたということで、ただただついていくだけの参加だった。それでも、その中で出会った方々の温かさ、子供たちが私たちのパネルシアターで満面の笑みを浮かべて喜んでくれる姿を見ることができ、更には千葉にいただけではまだまだ知ることのできない現状を知ることのできる機会になると知ることができ、また東北に戻ってきたいとも考えたため、参加を決めた。

今回一番初めに向かったところは、山元町である。山元町は東日本大震災で600人以上の方が犠牲となった町だ。8年たった今は、大きな公園やたくさんの方が並んでいた。そこに建てられていた、「つばめの杜ひだまりホール」を案内してくださったのは、淑徳大学の大先輩の岩佐先生。あまり、時間がなかったのにも関わらず、ホール内を案内してくださった。1階のブースには、震災当時の映像や写真が展示してあった。また、どんな時でも災害がくることを想定して、社員やスタッフが不在の時でも誰でも入れるような工夫がされ、220人が避難できると考えられて作られた多目的ホールも作られていた。非難される人が少しでも、過ごしやすいうようにと考えられていて、シャワー室や小さい子供のいる家族のために防音室や、お年寄りのための畳の部屋などといった部屋があった。あの時の経験があるからこそ、何が必要だったのか何が足りなかったのか、考えることができる。



情報交流館では、震災当時の記録のほか写真や映像があった。なによりも、自分が一番心に響いたものは、東日本大震災の被害がたくさん出たとされている、大川小学校についての新聞記事である。当時在学学生だった、男性の記事だった。あの日のことが、詳しく書いてあった。男性も、全校のみんなと同じ方向に逃げていた際、黒い塊が見えたと言っている。津波だ。それを見た瞬間、向きを変えて裏山へと逃げた。まわりは、パニック状態で、腰が抜けた低学年の子もいたそうだ。裏山を少し登ったところで津波が自分のところにも来たという。一度は波に飲み込まれたが、瓦礫を船のように使って助かった友達に腕を引っ張ってもらい、救出してもらった、そんな記事だった。当時は、わたしも小学生。千葉の揺れでさえものすごく怖かった。そんな中での、津波の恐ろしさは半端ないものだったと思う。そんなことを知った後に、急遽大川小学校の跡地へ行くことができた。去年も訪れたが、去年よりも被害を受けた方々のことをよく知ってから訪れたので、胸が締め付けられた。8年前、約80人もの子供、職員が亡くなった。子供たちは、生きていれば私たちと同じ年くらいである。わたしたちが今の生活を送れていることを、当たり前と思ってはいけないと感じた。去年は、当時のままの大川小学校だったが、今年は、震災跡地として、看板やグ



ラウンドには、「大川小」という形にお花が植えられていた。卒業生たちは、大川小学校を残すことで亡くなった友達との思い出、亡くなった弟妹との思い出自分たちの思い出も一生残り続けると、話していた。教育現場で働くことを目指している私たちにとって、この大川小学校の被害を受け止めて、二度と同じことが起きないようにしていくこと、これが唯一出来ることなのかもしれない。

前日の練習日にみんなで集まれる時間が少なかった分、亀山旅館では、パネルの順番や練習をたくさんたくさん行った。間違ってしまうことも多くて、みんなには迷惑もかけてしまったけれど、藤田先生やメンバーのみんなが、フォローしてくれ、自分自身も心から楽しめた。



パネル公演では、三箇所の保育所を回らせていただいた。一緒に手遊びをして、心から楽しんでもくれた子、何がなんだからわからないけど一緒に手遊びをしてくれた子、ただただ手を叩くことが楽しいと言わんばかりに満面の笑みで手を叩いて音楽に乗ってくれた子。わたしたちが笑顔を届けるはずだったのにもかかわらず、子供達の楽しそうな顔や先生たちの笑顔がたくさん

たくさんいただき、元気をもらった。今回あった子供たちはみんなあの 3.11 にはまだ生まれておらず、あのときのことは経験してない。どんどんあの日を知る人が少なくなってしまう。でも、大川小学校を残しておきたいという人たちが言うのと同じように、震災がどんなに恐ろしく、人の命をすごいスピードで奪っていったこと、そしてもっと多くの命が存在していたということを、当時の経験をしている人だけでなく、私たち世代が幼い子供たちに伝えていくことが大切なのだと思う。八年前の「東日本大震災」は、記憶から消してはならない、そう感じた。

最後に、たくさんの笑顔くれた子供たち、温かく迎えてくださった先生方、山元町の素晴らしさを教えてくださった岩佐先生、美味しいご飯を用意してくれた亀山旅館のみなさん、三日間ずっとバスを運転してくれた中村さん、今回このような機会を与えてくれた藤田先生、ありがとうございました。また、東北に帰ってきます。



二回目のパネルシアターキャラバン

教育学部 こども教育学科 2年 並木 藍

今回、パネルシアターキャラバンは二回目の参加だった。地震や津波の被害を受けたところの視察では、去年とは違う場所を視察し改めて地震と津波の怖さを知ったり、同じところを視察し去年より確実に復興していることをこの目で確かめたりすることが出来た。しかし、パネルシアターの公演では自分の力不足を大きく痛感した。

一日目に、JR山下駅の近くにある防災センター「つばめの杜 ひだまりホール」を視察した。そこで 3.11 の時の状況や、その経験を基に作った設備などを視察させていただき、お話を伺った。この防災センターには三つの役割があり、一つ目が 3.11 の時の記録や経験を後に残していくための防災教育のため、二つ目がこの施設にはホールなどがあるため地域の交流の場、三つ目が 3.11 の時のような大きな自然災害のあったときの避難所の役割としてである。その為、この施設の各部屋には二通りの使用用途があり、一つは普段の時に使うホールだったり会議室だったり、二つ目は役割でもあった通り災害時の時に使う用途の避難者相談室であったり、更衣室、授乳室である。ここで伺ったお話で印象的だったのが、他の部屋よりも奥まったところにある部屋で表向きには「ホール控室（更衣室）」で、普段の使用時の時と災害時の使用時の二つの用途が書いた一見普通の部屋は、本当に災害が起きたときは 3.11 の時にも実際にあったことを基に、避難してきた方が残念ながら亡くなってしまった時の遺体を置いておく部屋として想定しているというお話であった。施設全体に共通して言えることだが、この施設の設備の一つひとつがとても具体的であると感じた。それはやはり、大きな地震、津波、そして避難生活を経験したその人たちが作ったからであると強く感じた。



二日目公演は、水押保育園、石巻市立こどもセンターで行った。水押保育園では、今回 1 年生で初めてパネルシアターをやる子がいたにも関わらず、全くそんな感じを感じさせない堂々とした公演で、とても頼もしかった。また、子どもたちもパネルシアター中の呼びかけで大きな声で答えてくれたり、風船のプレゼントをみんなで飛ばしたりして、笑顔で楽しんでくれたように感じた。石巻市立こどもセンターでは、乳児さんが多くパネルシアターに参加したりはなかなか難しいところがあり、そこでの声掛けなどに課題を感じたが、最後の風船のプレゼントでは親子で一緒に飛ばしたり、私たちと一緒に風船のとびネズミを飛ばしたりなどたくさん交流が出来て笑顔になってくれたので良かった。

二日目には去年に行った日和山公園と大川小学校に行った。1 年という時間がたったが写真にある通り着実に復興はしているが、まだまだ復興の途中であるというのがまじまじと分かった。大川小学校では日和山公園とは逆に時間が止まってしまったような去年と全く同じ震災当時のままの校舎が見られた。近くにある碑や地面の花など少しの変化は見られたが、後者は去年、8 年前と同じ姿で震災の悲惨さをそのまま伝えていた。



三日目の飯野川保育所での公演ではCDがかからないというトラブルがあったものの、一年生のアドリブでのつなぎで何とか公演を成功させることが出来た。この公演では私はパネルではなくピアノを弾くことが多かったが、こういうところで日々の練習が大切になると実感した。2年になってからピアノの授業ではピアノを間違っても、とにかく止まらないことを日々練習していた。この練習のおかげで、パネルシアターの公演の時も本番にあまりドキドキしづらくなったり、それでも緊張して少し間違えたときも止まらずに弾ききることが出来た。

最後にこの三日間の三回の公演を振り返って、この三回の公演を成功させることが出来てとてもよかったと思う。そして、この公演の成功は今回参加したメンバーの全員が全力で頑張ったからだと思った。去年、私が1年生で参加した時は経験豊富な2年生が引っ張ってくれ、思い返してみればおんぶにだっこの状態で2年生に頼りきりであった。それに比べ、今年参加した1年生は自分から「この作品がやりたいです。」や「こうしたらどうですか。」と積極的に参加し、2年の私が逆に助けられる場面も多々あった。そして、最初に述べた通り自分の力不足を痛感した。2年という1年生を引っ張っていかなくてはいけない立場であったのにも関わらず、先に述べた通り1年生に助けられることが多々あり、引っ張りきれなかったことや、パネルシアターを演じる上での技術や声掛けの仕方、ピアノの技術、挙げればきりが無いほどである。だからこそ次回のパネルシアターキャラバンにも参加し、今回の反省を生かしてこの一年でたくさん力をつけてリベンジしたいと思った。

被災地のいままでとこれから

教育学部 こども教育学科 1年 門脇 実希

今回、東日本大震災が発生した2011年から始まり、今年で9回目となる石巻パネルシアターキャラバンに参加した。そこで私は、被災地の見学とパネルシアターの公演を通して、多くのことを感じ、学ぶことができた。

○被災地見学を通して

石巻市内にある、震災についての資料館や避難場所となった公園などを見学してまわった。震災から8年たった今でも、多くの建物や道路に残る津波の被害の跡に衝撃を受け、地震や津波の恐ろしさ、東日本大震災の被害の深刻さを改めて実感した。復興にはまだまだ多くの時間がかかり、私たちにできることは何なのだろうと、深く考えさせられた。石巻市復興まちづくり情報交流館には、メッセージを書くことができる大きなボードがあり、様々な言語でメッセージが書かれていた。世界中の人が、被災地の復興を応援してくれているのだと感じることができた。その他にもいくつかの場所をまわったが、中でも特に印象に残っているのは、二日目に見学に行った大川小学校だ。震災後、大川小学校はニュースなどでよく取り上げられており、避難が遅れ、児童の多くが命を落としてしまったと聞いていた。だが実際に行ってみると、想像以上の悲惨さだった。窓や壁はすべて流され、むき出しになった校舎。天井もほとんどが剥がれ落ちていた。渡り廊下は大きく傾いて倒れていて、体育館はステージへ続いていたらしき階段以外、ほとんどなにも残されていなかった。小学校の面影とともに津波に飲み込まれてしまった



多くの子ども達は、どれだけ恐ろしい思いをしたらだろう。それ以上に、残された数少ない子ども達は、元の姿からはかけ離れた自分の小学校を、どんな思いで見たのだろうと考えると、とても胸が痛んだ。また、体育倉庫にポツンと残されているハードルや学年が書かれたプラカード、教室にひとつだけ残された机やボールなど、僅かに残っている生活感から、ここで、当時小学生だった私たちと同じように学校生活を送っていたことを感じられ、余計に胸が締め付けられた。校舎の周りにはロープが張られていたが、その他は自由に見学できるようになっていた。それぞれの建物の前には当時のことを知れるよう



に、様々な情報や震災前、震災直後の写真などが展示されていた。私たちのように、震災を経験し、当時の様子を知っていても、実際に目の当たりにすることでしか感じることはできないこと、わからないことがたくさんあると思う。だからこそ、教員になろうとしている立場として、将来、そこで現実に起こったこと、目で見えて感じたことを未来の子ども達に伝えていかなければならないのだと思った。大川小学校といくつかの建物はいま、震災遺構として残すかどうかの審議が行われている。ぜひ、大川小学校やその他の建物が震災遺構として残され、できるだけ多くの人の目に触れることで、忘れ去られることがないようにしてほしいと強く思った。

○パネルシアター公演を通して

今回、保育所2か所と石巻市子どもセンターで計3回、公演を行った。パネルシアターは実際に子どもたちの前で取り組んだ経験が少なく、不安が大きかった。だが、何回も話し合いを重ねて、演目や、出し方・セリフなどを決め、先生に指導していただき、前の日も夜遅くまで練習を重ねた。そのおかげで本番は緊張することなく、楽しんで取り組むことができた。公演中、音楽がかからなかったり、パネルの準備に手間取ったりと、様々なハプニングが起きた。そんな時は、間が空いてしまわないように前のペアが子ども達に問いかけて話をしたり、手が空いている人が手伝ったりと、フォローしあうことで公演が成功する。パネルシアターは演じている人だけでなく、その場にいるメンバー全員が協力して出来上がるものなのだと学んだ。幼児向けと乳児向けの演目を分ける際、どのような内容がそれぞれの年齢に合ったものなのかわからずにいた。しかし実際にやってみると、



幼児向けに用意したものでも真似をするのが難しかったり、乳児向けには少し難しいかと思っていたものでも意外と動きを真似してくれたり、どの程度のもがそれぞれの年齢の子ども達に楽しんでもらえるかを知ることができた。また、保育所で振りがついている演目を行った際、1歳くらいで、まだ振りを真似できない子どもが、他の子どもが振りを真似している隣で、歌に合わせて楽しそうに自由に体を動かしていた。パネルシアターは、まだきちんと参加することが難しくても、音に合わせて体を動かすことの楽しさを教えることが出来るのだとわかった。パネルシアターの面白さは、本番の子ども達からの予想外の回答にもあると感じた。私たちからの問いかけに、思いもよらない答えを出してきたり、予想外の反応がかえってきたりする。この3公演を通して、パネルシアターの魅力をたくさん感じる事ができた。何よりも、子ども達が本当に楽しそうに参加してくれて、私自身も心から楽しむことができた。

いまだ復興の途中にある被災地で、これからの未来を作る子どもたちにたくさんの笑顔をお届けができるこのパネルシアターキャラバンは、過去と未来をつなぐ、とても素敵な活動だと感じた。今回このパネルシアターキャラバンで多くの貴重な経験ができ、参加できて本当に良かったと思う。今回感じたこと、学んだことを無駄にせず、今後に生かしていきたい。



自分の目を見た石巻

教育学部 こども教育学科 1年 富士 あやめ

私は今までテレビでしか被災地を見たことがなかった。山元町に着き、防災センターへ向かっている時、バスの外を見ると数多くの住宅が並んでいた。どの建物を見ても新築ばかりだったので、震災で津波の被害を受けた地域だということが分かった。このように復興が進んでいる場所もあれば、別の場所では津波の被害にあった建物が8年経った今でもそのまま残っていた。全てを復興させるには、まだまだ多くの時間がかかるのだと思った。雄勝病院の跡地を通った時、屋上の高さまで津波が来たのかと思うと津波の恐ろしさを感じた。

防災センターでは震災時の状況を知ることができ、ホールではコンサートを行ったりすることができる。また、学習コーナーでは、多くの学生が学習に取り組んでいた。このように、この防災センターは日頃から地域の方々が集う場所になっていると感じた。避難所になるときは、乳幼児のいる家族に対して個室を用意するという配慮や、ご年配の方のための和室も完備されていた。食料や水の貯蓄、かまどベンチやマンホールトイレなどもあり、震災が起きた際に地域の方が安心して避難できる場所になると思った。発電機などは日常的に貸し出しをしたりしていると聞き、有効的に使われているし、地域の方との関わりを大事にしていると思った。



私がこのパネルシアターキャラバンに参加して強く印象に残ったのは、やはり大川小学校を見たことだった。テレビでしか被災地を見たことがなかった私にとって、あの光景は一生忘れられないと思う。支柱に巻き付いたワイヤーや津波によって剥がれてしまった天井、がれきの山など目を疑うような光景ばかりだった。大勢の子どもたちがこの場所でどれだけ怖い思いをしたのか、津波に飲み込まれてしまった子どもたちのことを考えると胸が締め付けら

れるような思いでいっぱいになった。安全な場所であるはずの小学校で多くの生徒が津波で命を奪われてしまった。大川小学校について調べてみると、教員の避難指示の問題について多く出てきた。もっと早く避難すれば助かったのではないかという言葉をよく目にした。将来、教員を目指す立場の人間として、子どもの命を預かるということに十分責任を持ち、一つひとつの判断が重要になるということに改めて気づかされた。



パネルシアターでは、参加メンバーで話したことのある人も少なく、パネルシアターの経験もあまりなかったのが不安だらけだったのですが、すぐに仲良くなることができて本当にメンバーに恵まれたなと思った。夜遅くまでの練習やバスの中での歌練習、困っていたら助け合える。そして本番はハプニングがあっても臨機応変に対応できる。そんな暖かくて素晴らしい人たちに囲まれてこのキャラ

バンに参加できたことは本当に思い出になった。対象年齢を考えて公演内容を変えたり、進め方を変えたりして、ただやるだけではなく、どのようにしたら子どもが楽しんでもくれるのかを考えてやり方も変えていくことが大切だと分かった。パネルシアターを見て子どもたちがとても喜んでくれたし、子どもと触れ合っている時の生き生きとしたみんなの顔を見て、今回参加してよかったなと思えた。また、最後にプレゼントしたバルーンアートで楽しそうに遊んでいる子どもの姿を見て、子どもの笑顔は本当に元気をもらえると改めて感じる事ができた。

今回のキャラバンで、震災のことを深く知ることができ、たくさん学ぶことができた。これをきっかけに、これからも学んでいき、震災を知らない子どもたちに伝えていくことが大切だと思った。東日本大震災から間もなく8年経つが、未だに2,533人もの人が行方不明になっているそうだ。まだ見つかからない家族を探し続ける人のことを考えると心が痛くなる。震災の深刻さを知ってもらうために、少しでも多くの人に交流センターで当時の状況を知ってもらったり、実際に足を運んで自分の目で見てもらいたいと思った。日和山公園で見た昔の写真と現在の風景を比べて、変わっていることがたくさんあった。これが来年にはどう変わっているのか、1年でどれだけ変わるのかをぜひ見てみたい。3公演が本当にあつという間に終わり、まだまだやりたい！と思えた。それは一緒に参加したこのメンバーのおかげで、また一緒にパネルシアターをやりたいと思った。もっともっとたくさんの人たちにパネルシアターの魅力を知ってもらいたいと思ったので、これから積極的にボランティアに参加していきたい。今回のパネルシアターキャラバンで本当にたくさんのことを学ぶことができ、とても貴重な経験となった。今回得たものをこれからに活かし、夢に向かって頑張っていきたいと思えた。本当に3日間ありがとうございました。



自分にできること～石巻パネルシアターキャラバン～

教育学部 こども教育学科 1年 石井 優斗

1. 今回のパネルシアターキャラバンに参加した目的

私は、「パネルシアタークラブ PITAPETA」の一員であり、藤田先生のお誘いをいただき、今回のボランティアに参加をした。参加するにあたり、2つの目標を立て臨んだ。1つ目は、パネルシアターを通して現地の方々とふれあい、たくさんの人との交流をすることだ。また、パネルシアターの楽しさを広めていきたい。2つ目は、東日本大震災の被災地である宮城県山元町、石巻市を実際に見ることである。実際に被災地へ向かうことは、今回が初めてであるため、この目にしっかりと焼き付けたい。

2. 実際に被災地を見て

● 山元町防災センター「山元町ひだまりホール」

初日に向かった、「山元町ひだまりホール」では、山元町の被害状況やその後の防災対策・設備を、現地の岩佐先生による紹介のもと見学させていただいた。震災の教訓をもとに、様々な設備が備わっていた。非常用のコンセントや自家発電設備、備蓄品など、多くの対策が備わっていた。通常時には、読書スペースやコンサートホールなど、町民の方が利用できるようになっていたが、災害時には災害拠点に切り替わり、各部屋が災害用に役割を変えると聞いて驚いた。震災の教訓が生かされていると感じた。



● 日和山公園・石巻かわまち交流センター・石巻市復興まちづくり情報交流館

2日目に向かった日和山公園では、震災前の町の様子と現在の様子を比較した。標高が高いこともあり震災時には多くの人の命を救った公園である。震災前の様子とは全く違って驚いた。自分たちの町が津波に飲み込まれていく様子を実際に見た方にとって、それがどれだけつらいことだったかと思うと、胸が締め付けられる思いだった。資料館では様々な資料を見た。震災の被害状況、亡くなった人数など、改めてその被害の大きさを学んだ。特に津波の到達地点を見たときには驚かされた。私の身長が175 cmぐらいであるが、それを優に超える高さであった。町中でもこんなに高い水位であったということで、津波の恐ろしさを実感した。



● 石巻市立大川小学校

今回一番見てみたいと思っていた、大川小学校。児童と教員、合わせて84名が亡くなった大川小学校では救えた命を救えなかったとして、度々ニュースや新聞で報道されている。震災遺構として残った大川小学校をこの目で見たいと思っていた。実際目の当たりにして、津波の恐ろしさを実感した。被害に遭った子どもたちにとって、それがどれだけ恐ろしく、苦しかっただろうと考え、心が痛む。こんなことは二度と起こってはいけない。将来教員を目指す私にとっても



良い刺激となった。子どもたちの命を預かっているという意識をもっていかなければならない。

3. パネルシアターを通して

パネルシアターでは何よりも自分が楽しむこと、そしてその楽しさをみんなで共有することを意識して臨んだ。パネルシアターを通して多くの子どもたちとふれあった。子どもたちと一緒に歌ったり踊ったりと、とても楽しい時間だった。また、今回は普段一緒にパネルシアターを演じる機会がないメンバーと公演して、自分の中でも良い刺激となった。少ない練習時間ではあったが、みんなで一丸となって、どの公演でも素晴らしいパネルシアターを演じることができた。純粋にパネルシアターの楽しさ、そして子どもたちと仲良くなれることを改めて実感した。これからも様々な場所でパネルシアターを演じていきたい気持ちが強くなった。



4. パネルシアターキャラバンを通して

今回が初めての参加で緊張や不安も少しばかりあったが、その気持ちもすぐに吹っ飛び、終わったころには、また行きたいという気持ちになっていた。震災から8年が経とうとする中で、自分には何ができるのだろうか。それを考えたときに2つのことを考えた。1つは、東日本大震災で起こってしまったことを風化させないために、後世に伝えていくことだ。震災のことを知らない子どもたちも多くなっていく中、教員を目指す私の役割だと考える。今回自分が実際に見たこと、聞いたこと、感じたことを伝えていきたい。2つ目は、今後もこうした震災ボランティアに参加することだ。パネルシアターを通して多くの方々を笑顔に、そして少しでも復興に関わっていけるようにこれからも過ごしていきたい。このメンバーで過ごせたことも本当に良かった。みんなで朝日や星を見たり、おいしいごはんを食べたり、たくさん話をしたりと、とても楽しく勉強になった2泊3日であった。来年のパネルシアターキャラバンもぜひ参加したい。



来年も行きたいパネルキャラバン

教育学部 1年 古賀 慎一朗

私が今回の震災ボランティア～パネルキャラバン～に参加しようと思ったきっかけは2つある。

1つ目に、東日本大震災から8年が経とうとしているが、震災の影響をまだ自分自身の目で見ることがなく、映像や写真では伝わってくる現実に対してどこか別世界のような感覚があり、現状を知りたいと強く思ったからだ。2つ目には、私はパネルシアターサークルに所属しているため、パネルシアターの魅力をさらに深めたいと思ったからだ。

このパネルキャラバンに参加して実際に被災地を訪問し、山元町防災センターへ行ったこと、日和山公園で震災前の写真と照らし合わせながら8年経った今の景色を見たこと、そして大川小学校へ行き、児童たちがどんな思いで命を落としていったのか、震災以降保存が決定された校舎を見てとても辛く思ったことが特に印象に残っている。

山元町防災センターでは淑徳大学卒業生の岩佐所長から震災当時の出来事、防災センターを設立したきっかけや今後の地震に備えた対策を、防災センターに装備されたさまざまな設備を案内していただき、また丁寧に教えていただいた。

日和山公園では石巻市内の街全体が見渡せたため、震災の被害が広範囲に及んでいたことをより痛感した。公園内にはここから眺める景色の美しさに心を奪われて歌を詠んだ石川啄木や宮沢賢治が詠んだ歌碑があり、さらに、平泉に行く途中に立ち寄ったとされる松尾芭蕉と弟子の曾良の銅像もあった。昔から多くの偉人たちも日和山からの景色を好んでいたことが伺える。多くの人々が震災当時、この日和山の高台へ避難し、命が助かったこと、そして避難した人々が見た景色がどんなものであったかを思うと胸が張り裂ける思いであった。

今回のキャラバンで最も心に残ったのは、70名の犠牲者を出した大川小学校へ訪問したことだ。バスから降り、慰霊碑で手を合わせてから、保存された校舎を見た。その場所だけ時間が止まっているような気がした。残された竹馬や一輪車が泥だらけのまま置かれていたこと、体育館があったであろう場所が跡形もなくなっていること、渡り廊下が逆さまになっていたこと等から津波の恐ろしさが伝わってきた。多くの児童がこの津波の恐ろしさと戦いながらも怖く辛い思いをしながら亡くなってしまったことを思うと、私はその場から立ち去ることが出来なかった。また大川小学校周辺には、震災前は多くの住宅地があり、年に一回大川小学校の児童が街を盛り上げたお祭りもあり、とても活気のある街だったそう。今はそのにぎわいもなく、学校の周辺は全て更地になっていた。

私は今、家族や友人に支えられ、将来小学校教師になる夢を持って毎日を生きている。被災地訪問を通じて生きていることのありがたさが身に沁みた。そして今後、地震や防災に関する知識を得ながら、教師としてこうした場面に遭遇した時に、児童へどのような指導をしたら良いかを考えていきたいと思った。

大学に入学してパネルシアターを知ることができたのは、本当に嬉しいことの1つである。パネルシアターの魅力、楽しさをより肌で感じる機会をさらに得たいと考えた。今回は幼稚園や保育所を含む3ヶ所で講演をした。サークルに所属しながら50分という時間で多くの演目をやりきったことがなかったため、最初はとても不安だった。しかし、事前学習を含め、演目決めやペアを組んで演じる楽しさ、同

じ演目でもペアを変えると全く違った解釈もできる不思議さなどますますパネルシアターの魅力を感じることができた。そして実際に子どもたちの前で披露し、子どもたちがパネルシアターの演目に楽しそうに笑顔で応えてくれたことがとても嬉しかった。今後もパネルシアターの魅力をさらに体現できるよう藤田先生のもと、さまざまな体験を積むことができれば良いなと思う。

今回のような貴重な経験ができる機会には、今後も積極的に参加したいと思う。



岩佐所長の案内で山元町防災センターを見学



日和山公園での記念撮影



大川小学校の現在の様子



飯野川保育所で行ったパネルシアター

忘れてはいけない震災被害

教育学部 こども教育学科 1年 岩出 旬平

● 防災センター

1日目に訪れた「防災センター」は、津波が起きても助かるくらいの高さで建てられている。この施設は、災害時に使えるようになっていて、各部屋には役割がある。ほとんどの部屋が、避難室になるが、調理室は炊き出し室になったりもする。

倉庫には、水や食料、簡易トイレなどが備蓄されている。

会議室などには、赤いコンセントプラグがある。これは、自家発電したときに、その電気を使用することができる。

災害時の工夫として、センターに職員がいなくても扉を開けられるようにしてある。鍵の場所に腕が通せるくらいの穴があり、そこは簡単に壊せる材質で造られている。

こういった施設がひとつでも多くあれば、地域の人たちは安心して暮らすことができるはずだ。



● 被災地を訪れて感じたこと

私は、東日本大震災が起きてから東北の方へは行っていなかった。今年で8年経つと考えると、とても早く感じる。

実際に訪れてみて、道が新しくなっていたり、堤防が造られていたり、かなり復興が進んでいるように思えた。しかし、まだ面影を残している場所も少なくなかった。



3日間のなかで、一番衝撃を受けたのは、「大川小学校」だ。囲いなどはされていたが、今も震災当時のままで残されている。体育館へと通じる渡り廊下は、崩れ、教室は壁がなくなり丸見えだった。震災前の大川小学校周辺の写真を見たところ、周りには家が立ち並んでいた。今では、小学校の周りは更地となり、本当に家があったのか疑いたくなる光景で絶句した。

● パネルシアターを行ってみて

今回は、初めてパネルシアターに触れた。大学で何度か見る機会があり、見るたび感動し、いつか自分もやってみたいと思っていた。

最初は、しっかり行うことができるか不安だった。しかし、練習中の先生からの指導や仲間からのアドバイスで自信がつき、当日も楽しく行うことができた。



今回の経験で、パネルシアターはまずやっているこちら側が楽しくしていないと、見ている相手は楽しくならないことが分かった。これは、パネルシアターに限ったことではないが、とても教員になるうえでも勉強になった。

ほかにも、その場での対応力（臨機応変）が必要だと思った。パネルシアターは、何があっても無言になってはいけなと指導を受けた。そのためには、臨機応変な対応ができなければいけない。

これ以外にも、大切なことはたくさんある。私は、このパネルシアターはとても奥深いものだと感じた。今回パネルシアターを行ってみて、魅力を知り、もっと関わっていきたいと思った。自分にとって、良い経験になった。

● まとめ（感想）

今回、パネルシアターキャラバンに参加し、現在の被災地の様子を実際に見ることができて、とてもよかった。

実際に見たときに、被害が大きすぎて、想像をすることができなかった。建造物をも流してしまう津波の大きさは、現地で震災前と震災後の写真を見比べてみると尚更わからなくなった。

今の子どもたちやこれから生まれてくる子どもたちは、東日本大震災を知らない世代となってくる。その子どもたちに、教えてあげなければいけないのが私たちの役目になる。この震災を、私たちは忘れてはいけなし、子どもたちは知っていかなければいけないことだ。

公演行った場所は、「水押保育所」、「飯野保育所」、「石巻市子どもセンター・らいつ」だった。対象は乳幼児で、子どもの年齢で公演の仕方を変えていた。その日の場所や設備の状態で、やり方を変えられるのはパネルシアターの良いところではないかと思った。やり方や声の調子、表情で見え方が変わるパネルシアターは、無限の可能性があり、たくさんの作品をこれから見ていきたい。

東日本大震災から8年。大人になった「今」だから感じたこと。

震災ボランティア～パネルシアターキャラバン～

教育学部 こども教育学科 1年 原 秀仁

私は、2月24日から26日に行われたパネルシアターキャラバンに参加した。参加するきっかけは、私はパネルシアターサークル「PITAPETA」に所属し、藤田先生からお話を聞き、興味を持ったことである。この一年間で、様々な場所でパネルシアター公演やボランティア活動に参加してきた。この経験を通して、東日本大震災の被災地の一つである石巻市で、復興支援としてパネルシアター公演をしたいと考えた。また、自分が経験した大きな震災の現地と現状を、五感を通じて知りたいと思った。

私自身、福島県や宮城県に行くのは初めてで、実際に行ってみてわかったことが多くあった。現地に向かう途中、福島原発によって汚染された土などが入ったフレコンバッグを目にすることがあった。また、民家などには人が住んでいる様子がなく、町全体が廃れているように感じた。地震や津波がもたらす被害は、直接的な影響だけではなく、原発事故のような二次被害まで引き起こし、人々の生活に影響を及ぼす現実を知った。大学の地球環境と環境保護という授業を通して、原子力発電の現状と課題を学んだが、このキャラバンでさらに原子力発電の有無について考えていきたいと思った。

被災地として初めに降り立ったのは、宮城県にある山元町である。山元町は宮城県の東南端の太平洋沿岸に位置し、東日本大震災では大きな津波の被害を受けたところでもある。私たちは山元町にある「つばめの杜ひだまりホール」に訪れ、所長である岩佐先生からご指導いただきました。このホールは、平常時は「地域の交流・活力を創造するための交流拠点」として役割を担い、災害時には「町民の安全と安心を守る防災拠点」として機能する施設であると知りました。実際に施設内を見学させていただき、災害時どのように機能し活躍するのか、自分自身の目でしっかりと見る事ができた。食糧や発電機などの備品の確保はもちろん、感染症対策や乳児対策など想定できることへの対策がなされていると思った。これらの対策ができる背景には、東日本大震災の直接的な経験があるからであり、一つひとつの取り組みを細かく知ることができて良かった。この「つばめの杜ひだまりホール」が、これから地域の活性化と安全を守る中心として機能することを願っている。



二日目は、今回の活動場所である石巻市でパネルシアター公演を行いつつ、市内にある「石巻市かわまち交流センター」や「石巻市復興まちづくり情報交流館」に訪れた。石巻市は、東日本大震災によって甚大な被害を受けた地域であり、よくテレビのニュースでも取り上げられていたのを覚えている。実際に、市内に入ると復興住宅や仮設住宅、まだ手がつけられていない建物など目にした。この町も津波の被害を受け、その復興の歩みについて交流館などで知ることができた。また、町全体を一望できる日和山公園を訪れ、震災前の写真と見比べたり、河川堤防や海岸堤防の補強工事を目にしたりした。夕方、大川小学校跡地へと訪れ、小学校を見学した。自分が今立っている場所で、たくさんの児童たちや先生方が大きな津波に巻き込まれたと考えると、何も言葉が出なかった。教員を目指している身として、自分の一つひとつの判断に責任を持つこと、そして東日本大震災の教訓をこれから生まれてくる未来の子ども達に伝えていかなければならないと強く思いました。

パネルシアターでは、何よりも子ども達や先生方、地域の方々に楽しんでもらうという目標を自分の

中で立て、この一年間で積み上げてきた経験と努力の成果を発揮できるよう精一杯努力した。「水押保育所」「石巻市子どもセンター」「飯野川保育所」の三つの公演場所をまわり、みんなで歌を歌ったり踊ったりして、楽しんで行うことができた。公演中の子ども達の笑顔がとても素敵で、一生忘れないと思う。子ども達のおかげで、私自身も緊張せずに公演を行うことができた。また、いつもとは違うメンバーでパネルシアターをしたので、いい刺激にもなった。夜遅くまで練習するのは大変だったが、メンバーで協力して築き上げていくことがとても楽しく、疲れもどこかに飛んでいく感じだった。楽しくパネルシアター公演をすることができ、みんなで築き上げたことへの達成感を味わうことができた三日間だった。これからもパネルシアターを続けたいと思うことができ、来年もぜひ参加したいと思った。



パネルシアターをする中で、目の前にいる子ども達は東日本大震災を体験していないことに気がついた。東日本大震災から 8 年が経ち、私自身が体験したことはもちろん、被災地で学んだことを伝えていかなければならないと思った。今回のパネルシアターキャラバンでは、東日本大震災について五感を通して知ることができた。東日本大震災以降、自分が経験した震災の現実を目で見て、知りたいと強く思っていた。パネルシアターを通して、被災地の多くの方々に笑顔にすることができたと思っている。また、被災地の現状と課題を知ったり、被災地の方々と貴重な交流をしたり、実際に訪れることで得られたことが多くあった。パネルシアターキャラバンに参加し得られたことを、これからの大学生活の中で生かしていきたい。



淑徳大学 地域支援ボランティアセンタープログラム

認知症サポーター養成講座

この講座は学生のみならず教職員が地域社会の一員として、認知症の方と接し方を理解し、積極的に行動できることをめざして淑徳大学地域支援ボランティアセンターが主催しています。本学では今後も地域住民とも連携しながら、積極的に取り組んでいきたいと思います。

◆埼玉キャンパス 平成 30 年 12 月 21 日（金）

33 名が出席しました。

（講師）

三芳町健康増進課地域包括支援センター 高市 朋 氏



認知症に対する正しい知識と理解をもち、地域で認知症の人やその家族に対して、できる範囲で手助けをする「認知症サポーター」の養成講座を開催しました。認知症サポーター養成講座を修了した学生・教職員には、「埼玉県認知症サポーター証」とその証としてオレンジリングが付与されました。

◆東京キャンパス 平成30年12月3日（月）

学生、教職員を含め43名が出席しました。

（講師）

板橋区おとしより保健福祉センター 認知症施策推進係 保健師 湊 理恵氏



2. 各キャンパスにおける活動内容

※センター活動は除く

平成30年度 ボランティア活動実績(千葉キャンパス)

日時	種別	単発・継続	件名	依頼元	内容	人数	備考
4月～	障・教	継	高次脳機能障がい学生支援(レクリエーション)	個人	学習支援	1	
4月～	教	継	松ヶ丘小学校学習支援	松ヶ丘小学校	教員サポート	7	
4月19日	障	単	福祉施設支援	スペースびあ	スタッフ支援	1	
4/21～	他	単	あしなが募金 春	あしなが育英会	募金支援	11	
4月30日	保	単	里親会保育	千葉県里親会	会合中の保育	3	
5月～	他	継	県警チップス	千葉県警察	非行少年のサポート	6	
5月～	老・他	継	まごころサポーター	ASA蘇我浜野(NPO法人虹色の街)	シニアの生活支援	13	
5月～	他	継	マリーンズ	千葉ロッテマリーンズ	イベント支援	7	
5月11日	障	単	福祉施設支援	ピュア宮敷	スタッフ支援	1	
5月12日	障・教	単	香取運動会	香取特別支援学校	運動会支援	7	
5月17日	障	単	ゆうあいピック	千葉市保険福祉局	スポーツ大会支援	2	
5月16日	障・他	単	スパルタンレース	エール・クリエイト	スポーツ大会支援	5	
5月19日	障・教	単	長生運動会	長生特別支援学校	運動会支援	1	
5月19日	障	単	千葉県障がい者スポーツ大会(卓球)	千葉県障害者スポーツ協会	スポーツ大会支援	5	
5月19日	障・教	単	松戸運動会(小学部)	松戸特別支援学校	運動会支援	3	
5月20日	障	単	千葉県障がい者スポーツ大会(水泳)	千葉県障害者スポーツ協会	スポーツ大会支援	19	
5月20日	障	単	共生スポーツまつり	日本障がい者スポーツ大会	スポーツ大会支援	5	
5月20日	教・他	単	逃走なう	てらこやちば	イベント支援	3	
5月20日	障・他	単	習志野わくわく春	習志野市ボランティアセンター	地域イベント支援	1	
5/26,27	障・他	単	Go!Together!	千葉市他	スポーツ大会支援	9	
5/26,27	他	単	レッドブルエアレース	レッドブルエアレース千葉2018後援会	イベント支援	11	
5月27日	障	単	千葉県障がい者スポーツ大会(陸上)	千葉県障害者スポーツ協会	スポーツ大会支援	21	
6月～	障・教	継	フレッシュサポーター	千葉県教育委員会	教員サポート	8	
6/1～3	障	単	障がい者スポーツ関東大会(バスケットボール)	千葉県障害者スポーツ協会	スポーツ大会支援	19	
6月2日	障・教	単	松戸運動会(中・高等部)	松戸特別支援学校	運動会支援	2	
6月3日	他	単	おゆみ町体育祭	おゆみ町町内会	体育祭支援	24	
6月3日	障	単	福祉施設支援	地域生活支援センターCan	スタッフ支援(ガイドヘルパー)	2	
6月9日	保・教	単	すぎなレクリエーション	すぎな子ども会	イベント支援	3	
6月9日	障	単	千葉県障がい者スポーツ大会(サウンドテーブルテニス)	千葉県障害者スポーツ協会	スポーツ大会支援	8	
6月9日	障	単	千葉県障がい者スポーツ大会(アーチェリー)	千葉県障害者スポーツ協会	スポーツ大会支援	3	
6月10日	障	単	千葉県障がい者スポーツ大会(ボウリング)	千葉県障害者スポーツ協会	スポーツ大会支援	11	
6月10日	障	単	千葉県障害者フライングディスク連盟主催フライングディスク選手権	千葉県障害者スポーツ協会	スポーツ大会支援	6	
6月14日	障・教	継	児童デイサービス	児童デイサービスいちご・すみれ	スタッフ支援	1	
6月24日	他	単	若い芽αのコンサート	千葉県文化振興財団	地域イベント支援	4	
7月～	教・保	継	子どもルーム	千葉市社会福祉協議会	スタッフ支援	28	
7月～	他	継	千葉市成人を祝う会運営協議員	千葉市子ども未来局	地域イベント支援	2	
7月7日	他	単	白旗七夕まつり	白旗町内会	地域イベント支援	22	
7月8日	障	単	千葉県障がい者スポーツ大会(フットベースボール)	千葉県障害者スポーツ協会	スポーツ大会支援	9	
7月22日	他	単	ゆうきの夏まつり	(株)TKPガーデンシティ千葉	地域イベント支援	6	
7月25日	他	単	ビーチクリーン	千葉市集客観光課	海浜の清掃	15	
8/4,5	保・教	単	星久喜公民館宿泊講座	星久喜公民館	スタッフ支援	2	
8/13～15	他	単	おゆみ町花火大会	おゆみ町町内会	地域イベント支援	20	
8月19日	他	単	親子三代夏祭り	千葉市を美しくする会事務局	地域イベント支援	8	
8月21日	障	単	市原障がい者スポーツ大会	ふる里学舎	スポーツ大会支援	4	
8月21日	障・教	単	児童養護施設卓球大会審判	千葉県児童福祉施設協議会	スポーツ大会支援	8	

平成30年度 ボランティア活動実績(千葉キャンパス)

日時	種別	単発・継続	件名	依頼元	内容	人数	備考
8月22日	障	単	ドリームナイト・アット・ザ・ブー	千葉市動物公園	イベント支援	86	
9/1,2	他	単	マジカルミライ	千葉市社会福祉協議会	イベント支援	4	
9/16,10/8	他	単	JEFかざぐるま	JEFユナイテッド	イベント支援	22	
9/22,23	他	単	千葉県民芸術祭	千葉県文化振興財団	地域イベント支援	1	
9月23日	障・教	単	車いすバスケット秋季大会	日本車いすバスケットボール連盟	スポーツ大会支援	2	実行委員会以外
10月4日	障	単	千葉県障がい者スポーツ大会 (フライングディスク)	千葉県障害者スポーツ協会	スポーツ大会支援	6	
10/5～7	障・教	単	長柄げんきキャンプ	千葉市立真砂中学校	教員サポート	1	
10/7,8	障・他	単	スポーツ祭り2018	スポーツ庁	スポーツ大会支援	3	
10月7日	他	単	おゆみ町おみこし	おゆみ町町内会	地域イベント支援	10	
10月7日	他	単	白旗例大祭	白旗町内会	地域イベント支援	7	
10月13日	障	単	YMCAマラソン	千葉YMCA	スポーツ大会支援	2	
10月20日	障・教	単	市原いちようまつり	市原特別支援学校	文化祭支援	1	
10月20日	障・教	単	長生しおかぜ祭	長生特別支援学校	文化祭支援	4	
10/21,22,27,28	他	単	あしなが募金 秋	あしなが育英会	募金支援	12	
10月21日	他	単	アクアラインマラソン	千葉県体育課	スポーツ大会支援	9	
10/27,28	他	単	DF赤い羽根募金	千葉市社会福祉協議会	募金支援	5	
10/27,28	他	単	DF消防イベント	千葉市消防課	イベント支援	6	
11月3日	他	単	千葉みなと赤い羽根募金	千葉市社会福祉協議会	募金支援	2	
11月3日	他	単	寺フェス	浄土宗	地域イベント支援	10	
11/8,10	障・教	単	松戸松特祭	松戸特別支援学校	文化祭支援	1	
11月10日	障・教	単	香取かよう祭	香取特別支援学校	文化祭支援	5	
11月10日	障・教	単	船橋いちよう祭	市立船橋特別支援学校	文化祭支援	2	
11月10日	障	単	わかば園	松里福祉会	イベント支援	3	
11月11日	障・他	単	習志野わくわく秋	習志野市ボランティアセンター	地域イベント支援	2	
11月17日	障・教	単	東金やまもも祭	東金特別支援学校	文化祭支援	1	
11/17,18	他	単	蘇我コミュニティまつり	千葉市中央区蘇我コミュニティセンター	地域イベント支援	4	
11月18日	障	単	千葉県障がい者スポーツ大会 (知的ハレーボール)	千葉県障害者スポーツ協会	スポーツ大会支援	8	
11月23日	他	単	パラフェス	日本財団パラリンピックサポートセンター	スポーツ大会支援	8	
11月25日	障	単	千葉県障がい者スポーツ大会 (知的バスケットボール)	千葉県障害者スポーツ協会	スポーツ大会支援	6	
12月6日	障・教	単	駅伝中学校	千葉県特別支援学校体育連盟	スポーツ大会支援	3	
12月8日	他	単	蘇我いきいきフェス	千葉市蘇我いきいきセンター	地域イベント支援	8	
12月9日	障	単	千葉県障がい者スポーツ大会 (聴覚ハレーボール)	千葉県障害者スポーツ協会	スポーツ大会支援	5	
12月9日	他	単	南町もちつき	蘇我南町三丁目町内会	地域イベント支援	8	
1月～	障・教	継	児童デイサービス	児童デイサービス いちご・すみれ	スタッフ支援	1	
1月～	教	継	成田市ふれあいルーム	成田市社会福祉協議会	スタッフ支援	1	
1月24日	障	単	千葉県障がい者スポーツ大会 (精神ハレーボール)	千葉県障害者スポーツ協会	スポーツ大会支援	9	
1月25日	他	単	千葉文化の森フェスタ	千葉県文化振興財団	地域イベント支援	1	
1月27日	他	単	生浜東小(おゆみ町内会) もちつき	生浜東小学校学区区子供会	地域イベント支援	5	
3月24日	障	単	パラ駅伝	日本財団パラリンピックサポートセンター	スポーツ大会支援	10	
合計						641	

* 災がい支援活動ボランティアは「被災地関連ボランティア活動実績」を参照。

* 直接学生が先方と連絡をとって実施したボランティアは含まれず。

平成30年度 災害関連活動実績(千葉キャンパス)

日時	種別	単発・継続	件名	依頼元	内容	人数	備考
4/30～5/2	被災地支援 (石巻市雄勝)	継	雄勝カレンダープロジェクト	地域支援 ボランティアセンター (千葉キャンパス)	復興支援カレンダー作成のための 現地取材・傾聴	21	平成24年度から継続中 7名×3日
7/28～31	被災地支援 (福島県)	継	ふくしまっ子Smileキャンプ夏 大阪・淡路島・京都	浄土宗災害復興事務所	福島県の児童に対する様々な野外活 動などの短期保養プログラム	32	平成27年度から継続中 8名×4日
7/31～8/3	被災地支援 (石巻市雄勝)	継	【大学全体企画】 雄勝学習ボランティア	地域支援 ボランティアセンター	石巻市雄勝小・中学校の生徒への夏 休みの学習支援	8	平成23年度から継続中 *1 2名×4日
12/25～12/28	被災地支援 (福島県)	継	ふくしまっ子Smileキャンプ冬 (長野県安曇郡)	浄土宗災害復興事務所	福島県の児童に対する様々な野外活 動などの短期保養プログラム	40	平成27年度から継続中 10名×4日
2/13～2/15	被災地支援 (石巻市雄勝・ 南三陸町)	継	【大学全体企画】 石巻おがつスタディーツアー	地域支援 ボランティアセンター	被災地でのボランティア体験を通し、 「いま、ここから、なにが」できるかを現 地の人々と共に考える	21	平成25年度から継続中 *2 7名×3日
2/24～2/26	被災地支援 (石巻市雄勝・ 南三陸町)	継	【大学全体企画】 パネルシアターキャラバン	地域支援 ボランティアセンター	被災地の子どもや高齢者への「心の ケア」を目的としたパネルシアターの 上演	3	平成23年度から継続中 *3 1名×3日
合計						93	
大学全体企画参加者						32	
総合計						125	

大学全体企画参加者については()内に表記

*1 「雄勝学習ボランティア」参加者中、千葉第1キャンパス参加者延べ人数。

* 災害支援活動ボランティアは「被災地関連ボランティア活動実績」を参照。

*2 「石巻おがつスタディーツアー」参加者中、千葉第1キャンパス参加者延べ人数。

*3 「パネルシアターキャラバン」参加者中、千葉第1キャンパス参加者延べ人数。

※一般ボランティアは「ボランティア活動実績(千葉キャンパス取りまとめ分のみ)」参照。

平成30年度 ボランティア活動実績(千葉第二キャンパス)

日時	種別	単発・継続	件名	依頼元	内容	人数	備考
5月5日	他	単	加曽利貝塚縄文春祭り	千葉市立加曽利貝塚博物館	運営支援、出店ブース支援	1	
5月12日	他	継	オレンジカフェ	ひだまり	運営支援、アクティビティ	4	
5月20日	他	単	蘇我いきいきセンター健康フェスティバル	千葉市蘇我いきいきセンター	高齢者の体力測定支援、運営支援	4	
6月2日	他	継	オレンジカフェ	ひだまり	運営支援	4	
6月9日	他	継	子ども食堂	ひだまり	献立作成、当日の運営支援	3	
6月9日	他	単	子ども110番 地域住民宅訪問	ひだまり	戸別訪問による昨年度の お礼と継続依頼	9	
6月30日	他	単	蘇我いきいきセンター 体力測定	千葉市蘇我いきいきセンター	高齢者の身体測定、運営支援	4	
7月7日	他	継	オレンジカフェ	ひだまり	運営支援、アクティビティ	4	
7月8日	障	単	中央プラザ 健康フェスティバル	千葉市中央いきいきプラザ	高齢者の身体測定、運営支援	1	
7月8日	他	単	子ども広場 子ども夏祭り	松が丘地区 育成委員会	模擬店支援、運営支援	9	
7月14日	他	継	子ども食堂	ひだまり	献立作成、当日の運営支援	2	
8月22日	障	単	下志津病院 フェスティバル	下志津病院 療育指導室	当日の運営支援	2	
8月25日	他	単	松ヶ丘中学校地区ふるさとまつり	松が丘小学校	当日の運営支援、模擬店支援	13	
9月8日	他	単	千葉東病院 秋祭り	千葉東病院	緑日の運営・支援、着ぐるみ	3	
9月23日	他	単	松ヶ丘地区敬老会	松ヶ丘中学校	会場案内、運営支援、 高齢者のお世話	1	
10月6日	他	継	子ども食堂	ひだまり	献立作成、当日の運営支援	3	
10月6日	他	継	オレンジカフェ	ひだまり	運営支援、アクティビティ	1	
10月7日	他	単	レクスボ大会	松ヶ丘中学校	運動会運営支援	2	
10月21日	他	単	蘇我いきいきセンター 健康フェスティバル	千葉市蘇我いきいきセンター	高齢者の身体測定支援、 運営支援	1	
10月28日	他	単	健康フェスティバル	淑徳大学看護栄養学部	身体計測、健康・栄養相談、 運営支援	17	
11月3日・4日	他	単	加曽利貝塚縄文文化秋祭り	加曽利貝塚博物館	運営支援・模擬店支援	7	
11月10日	他	継	オレンジカフェ	ひだまり	運営支援、アクティビティ	3	
12月1日	他	継	子ども食堂	ひだまり	献立作成、当日の運営支援	3	
12月1日	他	継	オレンジカフェ	ひだまり	運営支援、アクティビティ	3	
12月8日・9日	他	単	蘇我いきいきセンター フェスティバル	千葉市蘇我いきいきセンター	運営支援	6	
2月2日	他	継	子ども食堂	ひだまり	献立作成、当日の運営支援	3	
3月2日	他	継	オレンジカフェ	ひだまり	運営支援、アクティビティ	1	
3月9日	他	継	子ども食堂	ひだまり	献立作成、当日の運営支援	3	
合計						117	

* 直接学生が先方と連絡をとって実施したボランティアは含まれません。

平成30年度 ボランティア活動実績(埼玉キャンパス)

日時	種別	単発・継続	件名	依頼元	内容	人数	備考
5月18日	教	単	子育て支援ルームびよびよ	けやきっこ	あそびの会補助	11	
5月22日	教	単	淑徳子育て支援プログラム	針ヶ谷子育て支援室	パネルシアター・ヘビダンス等	12	
5月29日	教	単	淑徳子育て支援プログラム	竹間沢児童館	パネルシアター・ヘビダンス等	16	
6月2日	教	継	子ども大学ふじみ・子どもスポーツ大学ふじみ入学式 他	子ども大学ふじみ実行委員会・子どもスポーツ大学ふじみ実行委員会・富士見市教育委員会	小学生の班別指導	20	
6月12日	教	単	淑徳子育て支援プログラム	けやきこども園	パネルシアター・ヘビダンス等	30	
6月16日	教	継	子どもスポーツ大学ふじみ	子どもスポーツ大学ふじみ実行委員会・富士見市教育委員会	車いすバスケット始動補助	8	
6月19日	教	単	淑徳子育て支援プログラム	西みずほ台保育園	パネルシアター・ヘビダンス等	29	
6月21日	教	単	わくわく遊び隊	藤久保児童館	パネルシアター・風船ショー等	5	
6月22日	経	継	第28回みよしまつり(準備)	三芳町	募金箱作成・依頼	1	ボランティア研修
6月23日	教	継	子ども大学ふじみ	子ども大学ふじみ実行委員会・富士見市教育委員会	子ども活動補助	12	
6月24日	経	継	横瀬町道の駅連携事業	横瀬町	利用者アンケート調査	10	ゼミ
6月27日	経	継	第28回みよしまつり(準備)	三芳町	協賛金発送通知	2	ボランティア研修
6月30日	教	継	子ども大学みよし	子ども大学みよし実行委員会・三芳町教育委員会	入学式・パネルシアター補助	10	
7月3日	教	単	淑徳子育て支援プログラム	子育て支援センターびよびよ	パネルシアター・ヘビダンス等	18	
7月3日	教	単	淑徳子育て支援プログラム	子育て支援センターけやきっこ	パネルシアター・ヘビダンス等	11	
7月7日	教	継	子ども大学ふじみ	子ども大学ふじみ実行委員会・富士見市教育委員会	子ども活動補助	12	
7月8日	教	継	子どもスポーツ大学ふじみ	子どもスポーツ大学ふじみ実行委員会・富士見市教育委員会	乗馬体験補助	8	
7月13日	経	継	第28回みよしまつり(準備)	三芳町	ポスター掲示	2	ボランティア研修
7月14日	経	継	ふじみ野エコロポフェスタ	石坂産業	石坂産業の出展ブースの運営補助(ネイチャークラフト作り、風力選別機実験)	6	フィールドワーク
7月14日	教	継	子ども大学ふじみ	子ども大学ふじみ実行委員会・富士見市教育委員会	子ども活動補助	12	
7月14日	教	継	子どもスポーツ大学ふじみ	子どもスポーツ大学ふじみ実行委員会・富士見市教育委員会	空手教室補助	8	
7月14日	教	単	わくわく遊び隊	ふじみ野市(余熱利用施設エコノパ)	エコロポフェスタ	6	
7月18日	経	継	第28回みよしまつり(準備)	三芳町	模擬店データ入力	2	ボランティア研修
7月20日	教	単	子育て支援ルームびよびよ	児童館3館、針ヶ谷子育て支援室	あそびの会補助	3	
7月21日	教	継	子ども大学みよし	子ども大学みよし実行委員会・三芳町教育委員会	測量技術についての講義補助	10	
7月21日	教	単	緑のトラスト保全第14号地ネイチャーイベント(フレンドシップ事業)	三芳町	イベント司会・補助	2	
7月21日	経	単	埼玉で開催! 2年前イベント~Tokyo 2020 2 years to Go!	埼玉県 県民生活部 オリンピック・パラリンピック課	イオンレイクタウンへの大学ブース出展・強化クラブの活動広報	7	来場者へのオリンピック機運醸成
7月22日	教	単	埼玉で開催! 2年前イベント~Tokyo 2020 2 years to Go!	埼玉県 県民生活部 オリンピック・パラリンピック課	イオンレイクタウンへの大学ブース出展・パネルシアター	7	来場者へのオリンピック機運醸成
7月22日	経	継	エコプロダクツ川越2018	石坂産業	石坂産業の出展ブースの運営補助(ネイチャークラフト作り、風力選別機実験)	6	フィールドワーク
7月23日	教	継	三芳町「学習サポーター」	三芳町教育委員会	学習支援	4	
7月23日	教	継	入間市補充学習支援	入間市教育委員会	学習支援	5	
7月24日	教	継	三芳町「学習サポーター」	三芳町教育委員会	学習支援	4	
7月24日	教	継	入間市補充学習支援	入間市教育委員会	学習支援	5	
7月25日	教	継	入間市補充学習支援	入間市教育委員会	学習支援	5	
7月26日	教	継	三芳町「学習サポーター」	三芳町教育委員会	学習支援	4	
7月27日	教	継	三芳町「学習サポーター」	三芳町教育委員会	学習支援	4	
7月28日	教	継	子ども大学ふじみ	子ども大学ふじみ実行委員会・富士見市教育委員会	子ども活動補助	12	
9月28日	教	単	子育て支援ルームびよびよ	けやきっこ	ベビーマッサージ講習補助	2	
7月30日	教	継	三芳町「学習サポーター」	三芳町教育委員会	学習支援	4	
7月30日	教	継	朝霞市彩夏ちゃんのサマースクール	朝霞市教育委員会	学習支援	10	
7月31日	教	継	朝霞市彩夏ちゃんのサマースクール	朝霞市教育委員会	学習支援	10	
7月31日	教	継	三芳町「学習サポーター」	三芳町教育委員会	学習支援	4	

平成30年度 ボランティア活動実績(埼玉キャンパス)

日時	種別	単発・継続	件名	依頼元	内容	人数	備考
8月1日	経	継	第28回みよしまつり(準備)	三芳町	渋滞告知看板整理・設置	6	ボランティア研修
8月1日	教	継	朝霞市彩夏ちゃんのサマースクール	朝霞市教育委員会	学習支援	10	
8月1日	教	継	富士見市夏休み宿題教室	富士見市青少年育成市民会議	学習支援	10	
8月2日	教	継	富士見市夏休み宿題教室	富士見市青少年育成市民会議	学習支援	10	
8月2日	教	継	朝霞市彩夏ちゃんのサマースクール	朝霞市教育委員会	学習支援	10	
8月2日	教	継	子ども大学ふじみ	子ども大学ふじみ実行委員会・富士見市教育委員会	子ども活動補助	12	
8月3日	教	継	富士見市夏休み宿題教室	富士見市青少年育成市民会議	学習支援	10	
8月5日	教	単	みよしまち夏休み体験隊(フレンドシップ事業)	三芳町	体験活動企画・運営	6	
8月6日	経	継	第28回みよしまつり(準備)	三芳町	模擬店抽選会	4	ボランティア研修
8月6日	教	継	富士見市夏休み宿題教室	富士見市青少年育成市民会議	学習支援	10	
8月7日	教	継	朝霞市彩夏ちゃんのサマースクール	朝霞市教育委員会	学習支援	10	
8月9日	教	継	子どもスポーツ大学ふじみ	子どもスポーツ大学ふじみ実行委員会・富士見市教育委員会	野球体験教室補助	8	
8月16日	経	継	第28回みよしまつり(準備)	三芳町	データ入力	2	ボランティア研修
8月18日	教	継	子ども大学みよし	子ども大学みよし実行委員会・三芳町教育委員会	ラジオ製作体験補助	10	
8月18日	教	単	わくわく遊び隊	竹間沢児童館	パネルシアター・風船ショー等	6	
8月21日	教	継	子ども大学ふじみ	子ども大学ふじみ実行委員会・富士見市教育委員会	子ども活動補助	12	
8月21日	教	継	三芳町みらい&のぞみ サマー・チャレンジ・スクール!	三芳町教育委員会	学習支援	10	
8月22日	経	継	第28回みよしまつり(準備)	三芳町	招待状発送	2	ボランティア研修
8月22日	教	継	三芳町みらい&のぞみ サマー・チャレンジ・スクール!	三芳町教育委員会	学習支援	10	
8月23日	教	継	三芳町みらい&のぞみ サマー・チャレンジ・スクール!	三芳町教育委員会	学習支援	10	
8月23日～24日	教	単	入間市教育研究所サマー・チャレンジ・キャンプ	入間市教育委員会	活動補助	10	
8月24日	教	継	三芳町みらい&のぞみ サマー・チャレンジ・スクール!	三芳町教育委員会	学習支援	10	
8月25日	経・教	単	埼玉で開催!2年前イベント～東京2020パラリンピックに向けて	埼玉県 県民生活部	オリンピック・パラリンピック課	8	来場者へのパラリンピック機運醸成
8月25日	教	単	西みずほ台商店街夏祭り(フレンドシップ事業)	西みずほ台商店会	模擬店企画実施・催事補助	22	
8月27日	教	継	三芳町みらい&のぞみ サマー・チャレンジ・スクール!	三芳町教育委員会	学習支援	10	
8月28日	経	継	第28回みよしまつり(準備)	三芳町	会場ライン引き	3	ボランティア研修
8月28日	教	継	入間市補充学習支援	入間市教育委員会	学習支援	5	
8月28日	教	単	所沢市高齢者大学「世代間交流」	所沢市教育委員会	イベント支援	10	
8月28日	教	継	三芳町みらい&のぞみ サマー・チャレンジ・スクール!	三芳町教育委員会	学習支援	10	
8月29日	経	継	第28回みよしまつり(準備)	三芳町	掲示物製作	2	ボランティア研修
8月29日	教	継	入間市補充学習支援	入間市教育委員会	学習支援	5	
9月29日	教	単	三芳町世界一の芋ほり祭り(フレンドシップ事業)	三芳町	イベント運営スタッフ	38	
8月30日	経	継	第28回みよしまつり(準備)	三芳町	祭り当日役割分担確認	24	ボランティア研修
8月30日	教	継	入間市補充学習支援	入間市教育委員会	学習支援	5	
8月31日	経	継	第28回みよしまつり(準備)	三芳町	祭り準備	24	ボランティア研修
9月2日	経	継	第28回みよしまつり(当日)	三芳町	祭りボランティア	24	ボランティア研修
9月2日	教	継	子どもスポーツ大学ふじみ	子どもスポーツ大学ふじみ実行委員会・富士見市教育委員会	ニュースポーツ指導補助	8	
9月8日	教	継	子ども大学ふじみ・子どもスポーツ大学ふじみ修了式 他	子ども大学ふじみ実行委員会・子どもスポーツ大学ふじみ実行委員会・富士見市教育委員会	小学生の学習補助 他	20	
10月13日	教	単	わくわく遊び隊	東台小学校	パネルシアター・風船ショー等 秋祭り	3	
10月14日	教	継	子ども大学みよし	子ども大学みよし実行委員会・三芳町教育委員会	紙すき体験補助	10	
10月26日	教	単	わくわく遊び隊	かすが保育園		18	
10月26日	教	単	わくわく遊び隊	かすが保育園	イベント支援	18	

平成30年度 ボランティア活動実績(埼玉キャンパス)

日時	種別	単発・継続	件名	依頼元	内容	人数	備考
10月27日	教	単	わくわく遊び隊	北永井児童館	パネルシアター・風船ショー等 北永井フェスティバル	3	
11月1日	教	単	わくわく遊び隊	けやきこども園子育て支援センター	けやきっこ芋煮会	8	
11月7～9日	経	単	呉市復興応援代(災害ボランティア)	広島・呉	災害ボランティア(泥かき・洗浄等)	63	ボランティア研修
11月7日～18日	経	単	日本酒文化祭	いけぶくろ大明	文化祭スタイルの日本酒イベントの手伝い	2	ボランティア研修
11月11日	経	継	第32回三芳町産業祭	石坂産業	石坂産業の出展ブースの運営補助(ネイチャークラフト作り、風力選別機実験)	11	フィールドワーク
11月14日	教	単	わくわく遊び隊	三芳町第二保育所	パネルシアター・風船ショー等	5	
11月17日	教	継	子ども大学みよし	子ども大学みよし実行委員会・三芳町教育委員会	講義・修了式補助	10	
11月21日	経	継	横瀬町道の駅連携事業	横瀬町	利用者アンケート調査	8	ゼミ
11月25日	教	単	わくわく遊び隊	ふじみ野市(産業文化センター)	パネルシアター・風船ショー等、アートフェスタ	2	
12月1日	教	単	わくわく遊び隊	みよしコミュニティカレッジ	パネルシアター・風船ショー等、わくわくクリスマス	20	
12月2日	経	継	横瀬町道の駅連携事業	横瀬町	利用者アンケート調査	9	ゼミ
12月2日	経	単	オリジナルキャンドルを作ろう	ふじみ野市青少年相談員協議会	子供たちと一緒にオリジナルキャンドルを作る	3	ボランティア研修
12月8日	経	単	マラソン大会	ファンダフルラン実行委員会	マラソン大会の運営など	3	ボランティア研修
12月8日	経	継	SAITAMA環境フェア&こどもエコフェスティバル	石坂産業	石坂産業の出展ブースの運営補助(ネイチャークラフト作り、風力選別機実験)	11	フィールドワーク
12月13日	教	単	わくわく遊び隊	藤久保児童館	冬のお楽しみ会	6	
12月14日	教	単	子育て支援ルームびよびよ	子育て支援センターびよび	ベビーマッサージ講習補助	3	
12月22日	教	単	わくわく遊び隊	ふじみ野市(余熱利用施設エコノパ)	エコラボフェスタ	4	
12月22日～23日	経	単	子供たちと山登り	ふじみ野市青少年相談員協議会	子供たちと山登り、レクリエーションなど	3	ボランティア研修
1月17日	教	単	わくわく遊び隊	支援センターびよび	パネルシアター・風船ショー等、新年会&お楽しみ会	3	
1月26日	経	継	高齢者スマホ講座	淑徳大学	講師	7	淑徳大学コミュニティカレッジ
3月1日	教	単	わくわく遊び隊	支援センターびよび	パネルシアター・風船ショー等 雛祭会&お楽しみ会	7	
3月4日	教	単	子育て支援ルームびよびよ	三芳町保健センター、子育て支援センターびよび	ベビーマッサージ講習補助	2	
3月11日	教	単	子育て支援ルームびよびよ	三芳町保健センター、子育て支援センターびよび	あそびの会補助	2	
3月16日	教	単	わくわく遊び隊	三芳町第二保育所	パネルシアター・風船ショー等、門出を祝う会	8	
2018年5月～2019年3月	経	継	淑徳大学・道の駅連携事業	横瀬町・果樹公園あしがくぼ道の駅・国交省関東整備局	道の駅利用者アンケート調査・町内登山道・林道・巡礼路調査	31	ゼミ
通年	教	継	スクールボランティア	40小学校	学習支援・指導補助	40	人数は実質人数、活動日数は年間を通して週1回ほど
通年	教	単	特別支援教育学生支援員	川越市教育委員会	教育支援	10	人数は実質人数、活動日数は、年間を通して週1回活動
合計						1098	

* 直接学生が先方と連絡をとって実施したボランティアは含まれません。(経営学部)
* 備考「ボランティア研修」「フィールドワーク」「ゼミ」は、授業の一環として行ったもの (経営学部)

* 学内行事運営補助等は含めていません。(教育学部)
* 事業実施のための練習や他大学の視察等は含めていません。(教育学部)
* 単位修得できる科目としてのボランティアは含んでいません。(教育学部)

継続ボランティアの延べ人数
かがやきプログラム「教室復帰支援」 10人×10回＝100
特別支援教育学生支援員 10人×20回＝200
スクールボランティア 40人×30回＝1200

平成30年度 ボランティア活動実績(東京キャンパス)

<短期大学部:共生体験>

日時	活動名	主催(団体・施設)	活動内容	こども	社福	介護	医療	計	備考
30.4.29	こいのぼり	けやきの公園	祭りでの子ども支援	0	2	0	3	5	
30.5.20	国立公民館 親子活動	国立公民館	イベント補助	10	0	0	0	10	
30.5～9	ニリンソウを保存するための除草	ニリンソウを保存する会	ニリンソウの保全活動	7	0	9	0	16	
30.5.12	福祉の里まつり	和光苑	高齢者施設のお祭り	2	0	0	0	2	
30.5.13	結まつり	いたばし総合ボランティアセンター	コーヒー販売他	0	0	0	6	6	
30.5.13	ぼぼろの会 外出	ぼぼろの会	知的障がい者外出同行	2	1	0	0	3	
30.5.19	ときわ台つ・つ・つGARDEN	実行委員会	イベント補助	0	0	4	4	8	
30.5.26	わんぱく相撲	実行委員会	運営補助	0	0	0	1	1	
30.5.27	仲宿地区まつり	氷川児童館	祭での児童館コーナー(工作・着ぐるみ)	5	0	1	1	7	
30.6～9	みどりの苑 おしゃべりの会	特別養護老人ホームみどりの苑	話し相手の活動	10	1	1	0	12	
30.6～8	みどりの苑 夢のダンス	特別養護老人ホームみどりの苑	車いすダンス活動の補助	3	6	2	0	11	
30.6.10	板橋ふれあい祭	実行委員会	お祭り運営、模擬店の補助	8	0	1	0	9	
30.6.23	キャンドルナイト イン いたばし	いたばし総合ボランティアセンター	イベントでの子ども対応・準備	12	0	0	0	12	
30.6～7	ひとさじの会	ひとさじの会	路上生活者支援	6	2	8	0	16	
30.5～10	森の家 ボウリング	森の家	障がいのある方とボウリング	7	0	5	2	14	
30.7.1	七夕まつり	けやきの公園	祭りでの子ども支援	7	0	3	2	12	
30.7.9	前野町子ども食堂	わくわくランド	子ども見守り	0	0	0	4	4	
30.7.14	赤塚福祉園祭	赤塚福祉園	知的障がい者施設イベント補助	3	0	0	3	6	
30.7.14	移動水族館	オーネスト成増	高齢者施設イベント補助	3	0	0	0	3	
30.7.15	チャレンジキッズ	チャレンジキッズ	知的障がい児活動見守り	2	0	0	0	2	
30.7.21	夏祭り	加賀福祉園	知的障がい者施設イベント補助	2	0	0	0	2	
30.7.21	ギラギラ祭り	北新宿第一児童館	イベント補助	7	0	0	0	7	
30.7.21	夏祭り	廣瀬児童館	イベント補助	3	0	0	0	3	
30.7.29	納涼祭	上北沢ホーム	高齢者施設イベント補助	2	0	0	0	2	
30.7.29	納涼祭	ケアレジデンス東京アネックス	高齢者施設イベント補助	0	0	0	3	3	
30.8.3	納涼祭	更生施設ふじみ	イベント補助	5	0	0	0	5	
30.8.4	花火鑑賞会	オーネスト成増	高齢者施設イベント補助	5	0	0	0	5	
30.8.4	納涼祭	あずさわの里	高齢者施設イベント補助	11	0	0	3	14	
30.8.3	和綴じの本を寄付しよう	いたばし総合ボランティアセンター	イベント補助	3	1	0	0	4	
30.8.26	夏祭り	若竹ホーム	児童養護施設イベント補助	6	0	0	0	6	
30.8.18	納涼祭	三園福祉園	知的障がい者施設イベント補助	0	0	2	0	2	
30.8～10	上板橋小学校あいキッズ	三共会	学習・遊び	6	0	0	0	6	
30.8～10	中台小学校あいキッズ	三共会	学習・遊び	12	0	0	0	12	
30.8.6～9.7	病院ボランティア	東京都健康長寿医療センター	受付案内	0	0	0	75	75	
30.8.6～9.7	病院ボランティア	総合東京病院	受付案内	0	0	0	175	175	
30.8.18	ユニバーサルスマイルキッズコンサート	実行委員会(共催)	障がい児 コンサート運営	18	0	0	0	18	
30.8.23	すくすく広場	NPO法人フラワー	イベント補助	4	0	0	0	4	
30.8.25	夏祭り	金沢小学校おやじの会	イベント補助	2	0	0	0	2	
30.8.25	夏祭り	介護老人保健施設ブリムローズ	高齢者施設イベント補助	9	0	1	4	14	
30.8.28	夏期保育・夏祭り	めぐみ幼稚園	見守り・イベント補助	0	3	0	0	3	
30.8.28～30	学習支援	桜川小学校	夏休み宿題見守り	11	0	2	0	13	
30.9.1～2	東日本大震災ボランティア	NPO法人いわき緊急センター	すくのび広場	12	0	0	0	12	
30.9.15	秋祭り	おたきほうむ	高齢者施設イベント補助	2	0	0	0	2	
30.9.24	夏祭り	志村小学校あいキッズ	イベント補助	7	0	0	0	7	
30.9.30	子育て支援事業	国立公民館	イベント補助	5	1	0	0	6	
30.10.6	エコライフフェア	エコポリスセンター	イベント補助	0	1	0	0	1	
30.10.6	ほほえみの会	ほほえみの会	活動補助	3	0	0	0	3	
合計				222	18	39	286	565	

平成30年度 ボランティア活動実績(東京キャンパス)

<短期大学部: 共生体験以外>

日時	活動名	主催(団体・施設)	活動内容	こども	社福	介護	医療	計	備考
30.7.7	ベビーマッサージ教室	VC	講座運営補助等	7	0	0	0	7	
30.7.14・ 30.12.15	赤ちゃん、まだ話さないお子さん とのコミュニケーション - ベビーサインを中心に -	VC	講座運営補助等	19	0	0	0	19	
30.4.21～ 31.2.3	ぴち教室	VC	講座運営補助等	70	0	0	0	70	
30.12.1～12.2	東日本大震災ボランティア	VC	すくのび広場 子育て支援	7	0	0	0	7	
31.2.24～25	東日本大震災ボランティア	VC	すくのび広場 子育て支援	5	0	0	0	5	
30.10.6～11.24	音楽と遊ぼう	VC	知的障がい者生涯学習支援 事業企画運営	0	86	0	0	86	
30.11.4	すくすくまつり	すくすくまつり実行委員会	運営補助	5	0	0	0	5	
30.4.21 30.10.6	ほほえみの会乳幼児活動	板橋区ダウン症児者親の会 (ほほえみの会)	乳幼児活動企画運営	19	0	0	0	19	
30.10.28	笠間市ふれあいスポーツの集い	笠間市	スポーツ大会運営補助	1	0	0	0	1	
30.12.2・ 31.2.17	ほほえみの会スポーツ交流	ほほえみの会	スポーツ交流	0	5	0	0	5	
31.1.12	もちつき	和光市総合児童センター	もちつき補助	3	0	0	0	3	
30.9.14	親子で遊ぼう・考えよう講座	国立公民館	イベント補助	3	0	0	0	3	
30.11～31.2	ポポロの会	ポポロの会	知的障がい者外出支援	2	3	0	0	5	
30.3.9	いもの子作業所	いもの子作業所	障がい者施設イベント補助	0	1	0	0	1	
30.3.9	おしゃべりの会	みどりの苑	高齢者施設での傾聴	0	1	0	0	1	
合計				141	96	0	0	237	

平成30年度 ボランティア活動実績(東京キャンパス)

<人文学部>

日時	活動名	主催(団体・施設)	活動内容	歴史	表現	計	備考
30.7.31～8.3	石巻市立雄勝小学校・中学校 学習支援ボランティア	淑徳大学地域支援 ボランティアセンター	小学校で夏休みの学習支援 と交流(宮城県石巻市)	0	1	1	
31.2.13～15	東日本大震災復興支援プログラム スタディーツアー	淑徳大学地域支援 ボランティアセンター	スタディーツアー (岩手県陸前高田市他)	1	0	1	
継続	板橋区教育委員会 学習支援ボランティア	板橋区教育委員会	区内小中学校での学習支援	5	1	6	
30.7.23～8.2 30.8.24～30	前野小学校夏休み補講補助	前野小学校	学習支援	75	0	75	29名活動 延べ数
30.10.8	スポーツ祭り2018	スポーツ庁他	パラスポーツコーナー補助	0	2	2	
30.10.28	笠間市ふれあいスポーツの集い	笠間市	スポーツ大会運営補助	0	5	5	
30.12. 9 31.2.17	ほほえみの会 スポーツ交流	板橋区ダウン症児者親 の会(ほほえみの会)	スポーツ	2	2	4	
30.11.3	寺フェス	浄土宗立宗門大学 (関東) 共同	大正大学学園祭でのイベント 補助	3	1	4	
30.11.11	認知症村芝居	いたばし総合ボランティア センター	認知症理解啓発のための劇	0	2	2	
30.11.26	釈迦内枢唄 裏方	希望舞台・実行委員会	舞台裏方ほか	0	13	13	
30.12.8	八潮こども夢大学	八潮市教育委員会	大学体験	28	0	28	
30.10～3	ニュースレター編集	VC	取材・編集・デザイン等	0	27	27	4名活動 延べ数
31.2.17	市民劇	ピース・スコーレ	平和をテーマとした芝居の 練習とイベントでの発表	0	2	2	
31.3.17	板橋Cityマラソン	板橋区	運営補助	3	0	3	野球サークル 有志
30.6～31.3	親子じゃがいも収穫体験	板橋区	準備・実施補助	29	0	29	4回実施
30.6～30.12	Clearn Project	HEARTサークル	大学からときわ台駅までの ゴミ拾い	1	90	91	7回実施
30.10.12	高島平ロードレース	板橋区	運営補助	0	15	15	
合計				147	161	308	

平成 30 年度
淑徳大学地域支援ボランティアセンター活動報告書
〒260-8701 千葉県千葉市中央区大巖寺町 200
TEL.043-265-7331 FAX.043-265-8310

